**PENTAX**°



使用説明書





このたびはペンタックスカメラをお買い上げいただき誠にありがとうございます。Z-50Pはフィルム途中で自由にバノラマ/標準撮影の切り替えができます。さらに、FAズームレンズとの組み合わせによるオート露光間ズームや撮影倍率の指定、焦点距離の設定など高度なインテリジェントパワーズームを備えたオートフォーカス一眼レフカメラです。また、プログラムシフトを使えば、写真の効果を簡単に変えることができます。その他、以下のような特徴を備えています。

- 動体予測
- 6 分割測光

※表紙の写真は F ズーム 35~80mm が付いていますが、本文中のイラストおよび説明は FA ズーム 28~80mm を使用しています。 F ズームでは、パワーズームとオートズーム機能は使用できませんのでご注意ください。

ご使用前に使用説明書の関係部分をよくお読みのうえ正し くお使いください。

各部の名称は表紙と裏表紙の内側にありますので、開いて 各ページを読みながらご覧いただくこともできます。

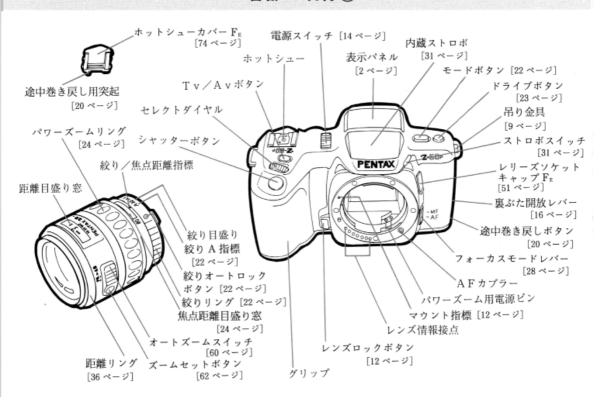
## 記号について

操作の方向	<b>—</b>
自動的に動きます	<b>4==</b>
注目してください	()
点滅します	3,4¢
正しい	0
間違い	X



各部の名称を開いて見ながらお使いください。

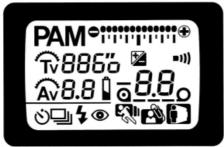
# 各部の名称(1)





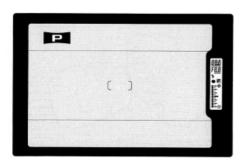
# 表示パネルの表示ガイド

1



P A	: プログラム自動露出マーク [22、40 ページ : シャッター優先 / 絞り優先自動露出マーク	[42ページ] お	
& M ® • • •	: Av [絞り] マーク : マニュアル露出マーク [47 ページ] : イメージサイズ指定モードマーク [63 ペー : ズームクリップモードマーク [61 ページ] : 露光間ズームモードマーク [66 ページ] : シャッター速度表示	ジ] り 5 8.8	: 連続撮影マーク [54ページ] : 1 コマ撮影マーク [53ページ] : セルフタイマーマーク [54ページ] : ストロボ情報マーク [31ページ] : フィルム枚数 / 露出補正値表示 [18ページ] : フィルム状態マーク [18ページ]
32	: 絞り表示 : 音マーク [59 ページ]		: 電池消耗 [11 ベージ] : 露出補正マーク [52 ページ]

# ファインダー内の表示ガイド



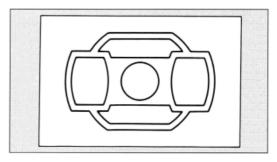
:オートフォーカスフレーム[AFフレーム]

:ストロボ情報マーク : 合焦マーク[ピント情報] :Tv表示[シャッター速度情報]

: Av表示[絞り情報] :パノラマシグナル P : バーグラフ : 露出補正マーク

※ ファインダー内の線は、パノラマ撮影をする際のパノ ラマ視野枠になります。

※ 標準撮影のときは、パノラマシグナル ■ が消えて いることを確認してください。



6 分割測光について

Z-50 P には、高精度のTTL6分割測光方式が採用され ています。画面の中を6つに分割して測光を行ない、様々 な光の条件下で最適な露出を得ることができます。

例えば、従来の平均測光方式では逆光の人物撮影のときな どに、背景の明るい部分が全体の露出に影響を与えるた め、写したい人物がどうしても暗くなってしまいます。こ れに対して分割測光では、画面のどの部分にどんな明るさ のものがあるのかカメラが判断し、そのまま撮影しても人 物が暗くならないように露出を決定します。また、逆光以 外の明暗差がある条件下でも画面を分割して適正露出が得 られるように自動的に露出補正をしますから、安心して撮 影を楽しんでいただけます。

(3)

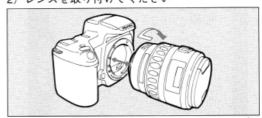
# 使い方は簡単です![とにかく撮影してみたい人のために]

## 1) 電池を入れてください



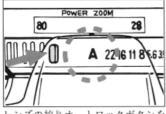
電池ぶたを開いて、リチウム電池 2 C R 5 1 本をカメラ の表示に合わせて入れます。[10ページ]

## 2) レンズを取り付けてください

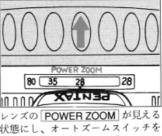


レンズとカメラのマウント指標を合わせてはめ込み、右に 止まるまで回してロックします。[12ページ]

## 紋りをA位置にしてください



レンズの絞りオートロックボタンを 押しながらリングを回し、絞りをA 位置に合わせます。[22ページ]



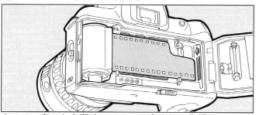
状態にし、オートズームスイッチを P にします[25ページ]。パワー ズームはFAズームでのみ可能です。

## 4) パワーズームにしてください 5) グリーンポジションにします



(4)

## 6) フィルムを入れてください



カメラの裏ぶたを開けてフィルムを入れ、先端マークに合 わせて裏ぶたを閉めます。自動的に1コマ目まで巻き上が ります。[16ページ]

## 8) パワーズームで構図を決めてください



ファインダーを覗きながらズームリングを回して、写した いものを好みの大きさにしてください。[24ページ]

## 7) オートフォーカスモードにしてください



フォーカスモードレバーを AF に合わせます。[28ペ ジ1

## 9) ピントを合わせて撮影してください





写したいもの[被写体]をAFフレーム[ ]に合わせて、 シャッターボタンを静かに押して撮影します。[28ページ]

(5)

## マウントについて

## カメラ・レンズのマウントについて

マウントの分類名称	レンズ分類名称	カメラ代表機種名		
● KaF2 マウント	ペンタックス FA レンズ	Z-1, Z-10, Z-20, Z-20p, Z-50p		
Ø Kaf マウント	ペンタックスFレンズ	SFXN, SF7		
⑥ KA マウント	ペンタックス A レンズ	スーパー A、P30т		
<b>④</b> K マウント	ペンタックス M レンズ およびペンタックスレンズ	LX, K1000		
③ スクリューマウント	SMC タクマーレンズなど	ESII, SP		

- ●~@のレンズはKマウント[バヨネット式]です。
- ●~②はオートフォーカス対応レンズです。
- ⑥~⑤はマニュアルフォーカスレンズです。
- ⑥は旧タイプのねじ込み式レンズですから、マウントアダプターKを使って取り付けます。
- ●~⑥は絞りリングにA[オート]位置が付いています。

ペンタックスFAレンズはKマウン

トに以下の機能が追加されたもの で、従来のKマウントカメラにも使 KAF2マウントレンズ えるようになっています。

- パワーズーム用電源ピン
- AFカプラー
- レンズ情報接点

Kマウント互換イメージ図

パワーズーム用電源ピン

## AFカプラー

• レンズ情報接点

## KAFマウントレンズ

AFカプラー

• レンズ情報接点

KAマウントレンズ • レンズ情報接点

Kマウントレンズ

## Z-50Pと各種レンズを組み合わせたときの機能

機能 · レンズ [マウント名]		Fレンズ [KAF]	A レンズ [K <sub>A</sub> ]	M レンズ [K]	S レンズ [P]
オートフォーカス(レンズ単体使用)	0	0	×	×	X
(AFアダプター1.7×使用)	_	_	○ 注1	○ 注1	×
マニュアルフォーカス(FI表示の利用)注2	○注3	○注3	○注3	〇注3	×
(マット面の利用)	0	0	0	0	0
パワーズーム	○注4	×	×	×	×
ズームクリップ	〇注4	×	×	×	×
イメージサイズ指定	〇 注 4	×	×	×	×
露光間ズーム	○注4	×	×	×	×
プログラム自動露出	0	0	0	×	×
絞り優先自動露出	0	0	0	○ 注 5	○ 注 5
シャッター優先自動露出	0	0	0	×	×
マニュアル露出	0	0	0	○ 注 5	○ 注 5
プログラム TTL オートストロボ撮影	0	0	0	×	×
TTL オートストロボ撮影	0	0	0	0	0
分割測光	Ó	0	Ó	× 注 6	× 注 6
絞り A 位置以外の絞り目安表示	0	Ó	×	×	×

- 注1:レンズの開放F値がF2.8より明るいレンズのみ。[AFアダプターの説明書をご覧ください。]
- 注2:ファインダー内の合焦マーク O に従って行なう手動のピント合わせ。[FI=フォーカスインジケーター]
- 注3:レンズの開放F値がF5.6より明るいレンズのみ。
- 注4:FAズームレンズのみ。
- 注5: 絞り A 位置はありませんので、セレクトダイヤルでの絞りセットでは使用できません。
- 注6:絞り優先自動露出のときは、中央重点測光になります。[マニュアル露出時はスポット測光]

7

# 説明書の構成について

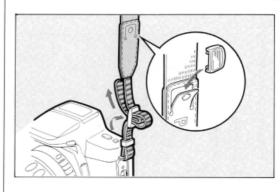
この説明書を効果的にご利用いただくために、 次のような構成になっています。



●とにかくZ-50°で撮影してみたい方は、「カメラの準備と基本操作」と「基本的な使い方[撮影]」をお読みください。最小限の操作を知っていただくだけで簡単な撮影がお楽しみいただけます。

# I カメラの準備と 基本操作

# (1)ストラップを取り付けます

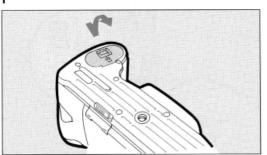


図のように、ストラップを取り付けてください。

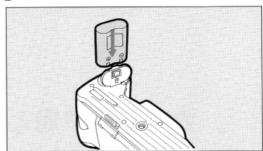
- \*歩行中に、カメラがあまり揺れないように、腰より上に くる長さに調節してください。
- \*ストラップの先端は、留め具の内側になるように通すと しっかり取り付けられます。
- \*ストラップのポケットは、ファインダーキャップ、レ リーズソケットキャップ、 ホットシューカバーなどの 小物入れとしてご利用ください。

9

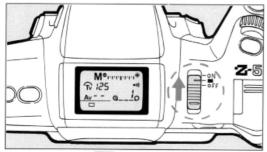
# (2) 電池を入れます



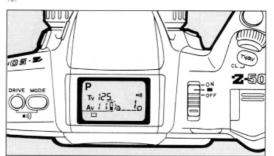
- 1. 図のように、電池ぶたの開放レバーを矢印の方向へ引 いて、電池ぶたを開きます。
- \* Z-50p は電池で動きますから、操作をする前には、必 ず決められたリチウム電池 2 C R 5 同等品を1個入 れます。 Z-50p には、サンプルの電池が添付されてい ますので、この電池をお使いください。



2. 電池の金属接点側を先に、カメラの+-表示に合わせ て電池を入れ電池ぶたを閉じてください。



3. 電源スイッチを ■ または ON にし、図のように表 示パネルに表示が出ることを確認してください。



※電池が消耗した場合

電池が消耗すると、図のように表示パネルに電池警告 🛭 が点灯します。お早めに電池を交換してください。電池警 告 か点滅に変わると、シャッターが切れなくなりま

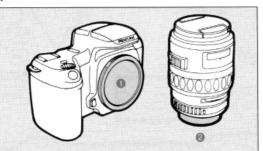
- \* 表示パネルの電池警告 ☐ が点滅になると、ファイン ダー内に表示中のLCD表示は消灯します。
- \* 電池を入れ直すと、フィルムカウンターの値、ISO 感 度の設定を除いて、Z-50Pの諸設定は工場出荷時の 初期設定に戻ります。

(11)

# (3) レンズを取り付けます

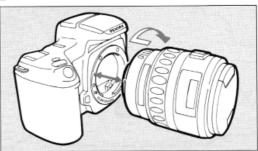
1

カメラの準備と基本操作



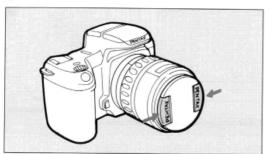
- 1. 図のように、 ●のボディーカバーと ❷のレンズ後カ バーを外します。
- \* ボディカバーは工場出荷時のキズやホコリ防止用のも のです。保管用には、別売りアクセサリーとして「ボ ディーマウントキャップK」が用意されています。
- \* FAズームレンズの着脱は、不用意なズーム作動を防 ぐため、電源スイッチを OFF にした状態で行なって ください。

2

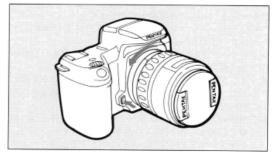


2. ボディとレンズの赤点指標を合わせて、レンズをボ ディのマウントにはめ込み、レンズを右に回すと 「カチッ」と音がしてロックされます。

カメラの準備と基本操作



- 3. レンズの前キャップは、図のように矢印部分を内側に 押すと外れます。
- \* 他社製レンズを本製品に使用されたことによる事故、 故障などにつきましては保証いたしかねます。
- \* ボディやレンズのマウント面には、レンズ情報接点や AFカプラーがあります。この部分にゴミや汚れが付 いたり、腐食が生じると、電気系のトラブルの原因に なる場合があります。汚れたときは、乾いた柔らかい 布できれいに拭いてください。



※レンズを外すには

レンズを外すときは、レンズロックボタンを押したま ま、レンズを左へ回すと外せます。

\* 外したレンズは、接点やカプラーをキズ付けないよう にマウント面を上にして置いてください。

(13)

# (4) シャッターボタンの操作

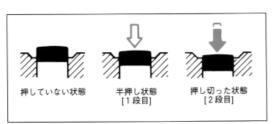
# (5) 電源スイッチの操作

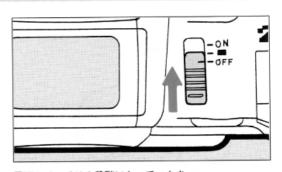
Z-50p のシャッターボタンは2段階になっています。 シャッターボタンを半押しすると[1段目まで押す]、露出 計やオートフォーカス機構が作動します。

さらにシャッターボタンを押し切る[2段目まで押す]と、 シャッターが切れ撮影できます。

シャッターボタンは、カメラぶれを防ぐためにも、息を止 めて指の腹でゆっくり押してください。

- \*フィルムを入れる前に、実際にシャッターボタンを押し てみて、どこまで押すと半押しになるのか、感覚をつか んでください。
- \*露出計のスイッチは、シャッターボタンを半押し後、指 を離しても約10秒間入ったままになります。なお、 シャッターボタンの半押しを続けると、露出計スイッチ も継続します。





電源スイッチは3段階になっています。

= フルスペックポジション

全ての露出モードが使用可能です。

= グリーンポジション 絞りが A 位置では、プログラム自動露出の

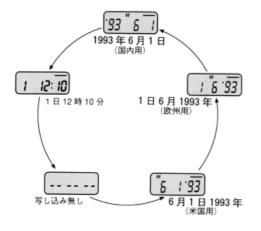
み。絞りが A 位置以外では、絞り優先自動露 出のみになります。

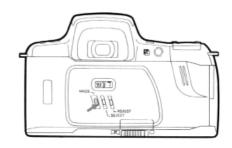
OFF = 電源OFF 使わないときは、必ずこの位置にしてくださ

(14)

M は「月」の位置を表わしています。

□ はシャッターを切ると点滅をして、日付けや時間が 写し込まれたことを知らせます。





- \* 日付けや時間の表示は、撮影のたびに写し込まれま す。
- \* -----にすると何も写し込まれません。
- \*日付けの表示方法は、3種類あります。
- \* データの写る部分[画面右下]に白や黄色のものがある と、写し込まれたデータが見えにくくなりますので、 構図に注意してください。
- \*日付けの修正は、81ページをご覧ください。
- \* データバックの電池は、リチウム電池を使用します。 データの写り込みが薄くなったり、データバックの表 示窓の表示が薄くなったり、消えた場合には電池を交 換してください。なお、電池の交換は80ページをご覧 ください。

(15)

# (7) フィルムを入れます

カメラの操作に慣れるまでは、カメラにフィルムを入れないで練習されることをお勧めします。

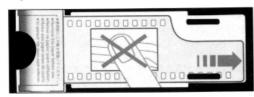
## フィルム感度自動セット

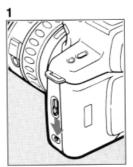
カメラの準備と基本操作

このカメラでは、フィルムを入れるだけでフィルム感度 が自動的にセットされます。

[ISO25~5000 までのフィルムが使えます。]

- \* ほとんどのフィルムが、フィルム感度を自動的にセットできる DX フィルムですが、 DX 以外のフィルムで はフィルム感度が 100 にセットされます。
- \* カメラを購入後、初めてフィルムを入れるときには、 裏ぶたを開けて写真のような防傷カバーをシャッター 幕に触れないよう注意しながら、取り外してください。

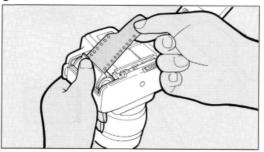






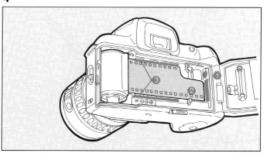
- 1. 裏ぶた開放レバーを矢印の方向へ下げると、裏ぶたが 開きます。
- 2. フィルムの凸部側を下にして上側から先に入れ、次に 下側を入れます。
- \* フィルムを入れるときは、直射日光が当たらないとこ ろで行なってください。

3



- 3. 図のように、左手でパトローネを押さえながら、手やフィルム先端がシャッター幕に触れないように気を付けて、フィルムを引き出します。フィルムを引き出し過ぎた場合は、フィルムをパトローネに戻してたるみを取ります。
- \* フィルム室内のDX情報ピンは、フィルム感度などを 読み取る接点です。キズやゴミ、汚れを付けないよう に、注意してください。ゴミや汚れがあるときは、乾 いた柔らかい布できれいに拭いてください。

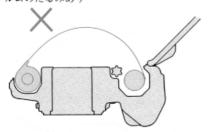
4



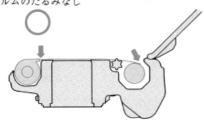
- 図のように、フィルム先端部を動の赤色先端マークに合わせます。
- \* フィルムの穴[パーフォレーション]を②の歯[スプロケット]に合わせ、③のガイドレール[図中、赤線部分]の間にフィルムが入っていることを確認してくださ
- \* シャッター幕は非常に薄い幕でできており、精度の高いものです。手やフィルム先端などが当たりますとシャッター幕を破損させる恐れがありますので、絶対に触れないように注意してください。

17)

フィルムのたるみあり

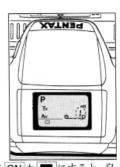


フィルムのたるみなし



\* フィルムの先端が極端に折れ曲がっているものは、 まっすぐに直すか、曲がった部分を切り取ります。 5





- 5. 裏ぶたを閉め電源スイッチを ON か にすると、自動的に巻き上げられます。
- \*表示パネルのフィルム枚数表示は、シャッターボタン を押して撮影するごとに1つずつ進みます。



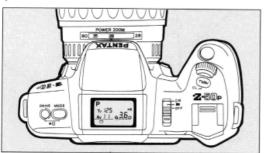
\*表示パネルに <u>e.</u> が 点滅しているときはフィ ルムが正しく入っていま せん。裏ぶたを開けて、 フィルムを入れ直してく ださい。

(18)

カメラの準備と基本操作

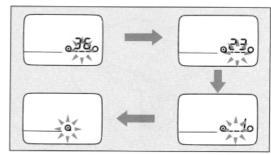
# (8) フィルムの巻き戻しについて

1



- 1. フィルムの最後まで撮影すると、自動的に巻き戻しが 始まります。
- \* 巻き戻し中は、表示パネルに [ \_\_\_\_ が点滅して巻き戻し 中であることを知らせます。
- \* 巻き戻し中は、表示パネルに撮影枚数が逆算表示され
- \* 巻き戻し中は、裏ぶたを開けないでください。
- \* フィルムは直射日光が当たらないところで取り出して ください。

2

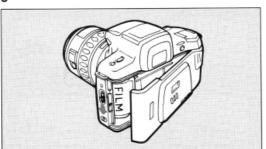


 巻き戻しが終了すると、表示パネルの が点減し、 撮影枚数の表示が消えます。

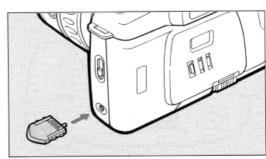
(19)



カメラの準備と基本操作



- 3. 裏ぶたを開け、フィルムを取り出します。
- \* 巻き戻しは24枚撮りフィルムで約15秒です。
- \* カメラを使わないときは、電源スイッチを必ず切って おいてください。
- \* 表示パネルの <a>の点滅を確認してから、裏ぶたを開</a> けてください。
- \* フィルムの規定枚数以上の撮影をすると、最後のコマ は現像所でカットされる場合がありますのでご注意く
- \* フィルムの巻き戻しが、電池の容量不足により途中で 停止したときには、裏ぶたは開けずにそのままの状態 で、電池の交換をしてください。



フィルムの途中巻き戻し

フィルムの規定枚数まで撮り終わらないうちに途中で取り 出したいときに使います。

電源スイッチを入れ、図のフィルム途中巻き戻しボタンを ホットシューカバーFEの突起で押してください。巻き戻し が始まります。表示パネルの の点滅を確認してから、 裏ぶたを開けてください。

\* 電源スイッチが OFF になっていると、途中巻き戻し の操作はできません。

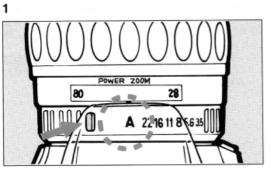
# (1)グリーンポジションに合わせます

Z-50 Pカメラには、高度な自動露出機能が付いていますが、ここでは、最も簡単に使えるグリーンポジションを使用します。他の露出モードについては39ページをご覧ください。

\* このモードは、最も簡単なモード [プログラム自動露出]ですから、シャッターボタンを押すだけで簡単に撮影が楽しめます。

# II 基本的な使い方 [撮影]

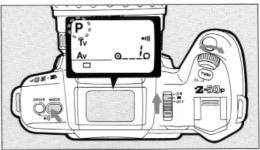
(21)



グリーンポジションにします

- 図のように、レンズの絞りリングをA位置に合わせます。
- \*レンズの絞りをA位置に合わせる場合は、絞りオートロックボタンを押しながら回してください。なお、A位置から外す場合にも、絞りオートロックボタンを押しながらリングを回してください。





- 2. 電源スイッチを **I** に合わせると、表示パネルに **P** が表示されます。
- \* グリーンポジションでは、プログラムシフトおよび露 出補正は働きません。



# (2) ドライブモードについて

ドライブモードは次の3種類を選択できます。

ロ = 1コマ撮影

シャッターボタンを押すごとに、1コマず つ撮影されます。最も一般的なドライブ モードです。

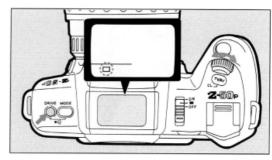
■ = 連続撮影

シャッターボタンを押し続けると、連続撮 影になります。 [54 ページ参照]

= セルフタイマー撮影 · 0

> シャッターボタンを押してから、約12秒後 にシャッターが切れます。

詳しくは、54ページをご覧ください。



ドライブモードの変更方法

ドライブボタンを押したまま、セレクトダイヤルを回すと ドライブモードを変更できます。ここでは、一般的な1コ ▽撮影 □ に合わせておいてください。



# (3) ズームレンズの使い方



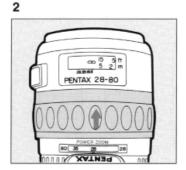
望遠側

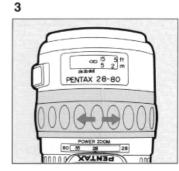
基本的な使い方



広角側 (24)

- ファインダーを覗きながらズーミング操作をすると、ファ インダー像が大きくなったり[テレ]、小さくなったり[ワイ ドルます。好みの位置に合わせて撮影してください。
- \* レンズの焦点距離表示の数字が小さいときは写る範囲 が広い広角[ワイド]側、大きいときは遠いものを大きく 写す望遠[テレ]側になります。
- \* Z-50p にペンタックスFAズームレンズを組み合わ せると、パワーズーム[電動ズーム]として使用できま す。
- \* ペンタックスFズームレンズなどと組み合わせる場合 は、マニュアルズーム[手動ズーム]としてご使用くださ

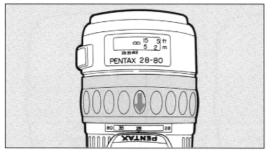




パワーズームで使用するには

- \* ベンタックスFAズームレンズのみパワーズームとして使用できます。
- FA ズームレンズにはオートズームスイッチが付いています。このスイッチをP(一部レンズではPZ)に合わせます。
- ズームリングを前側に押し出すようにして、図のように POWER ZOOM が見える状態にします。
- \* 工場出荷時は、この状態になっています。
- 3. ズームリングを右に回すと望遠[テレ]側へ、左に回すと 広角[ワイド]側に動き、手を離すと止まります。 なお、ズームリングは、回転させる角度によって、 ズーミング速度が3段階に変化します。ズームリング
- の回転角度を大きくする[当て付ける]と高速でズームが 動き、小さくすると低速で動きます。その中間位置で は、中速でズーミングできます。
- \* パワーズームでズーミングをすると自動的にピント合わせが行なわれます。 ただし、最終的なピント合わせはシャッターボタンの
  - ただし、最終的なピント合わせはシャッターボタンの 半押しで行ってください。
- \* FAズームレンズ使用時に電源スイッチを切ると、自動的にレンズの長さが最短になります。この場合、距離リングの位置は∞に、焦点距離はレンズの長さが最短となる位置になります。[FAズーム100~300mmや250~600mmを除く。]

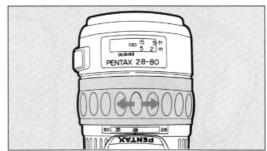
1



マニュアルズームで使用するには

\* F A ズームレンズは、ズームリングの切り替えで、マニュアルズームとしても使用できます。マニュアルズームに切り替えた場合は、F ズームレンズと同様に使用できます。

2



- ズームリングを手前に引いて、 POWER ZOOM が 隠れるようにします。
- ズームリングを右に回すと望遠[テレ]側へ、左に回すと 広角[ワイド]側に焦点距離が変化しますので、好みの焦 点距離に合わせてください。

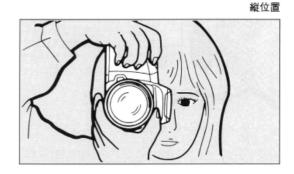
基本的な使い方





撮影するときは、カメラの構え方が大切です。

- \* シャッターボタンは指の腹で静かに押します。[強く押 すとカメラぶれの原因になり、シャープな写真が撮れ ません。]
- \* 木や建物・テーブルなどを利用して、体やカメラを安 定させることも良い方法です。
- \* 1/30以下の低速シャッターや超望遠レンズを使用すると きは、なるべく三脚を使用してください。また、別売 りの「ケーブルスイッチF」の利用をお勧めします。

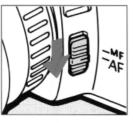


\* 特に望遠レンズで三脚を使用するときは、カメラやレ ンズの総重量より重い三脚を使うとカメラぶれ防止に 効果があります。

27)

# (5) オートフォーカスで使います

# (6) オートフォーカスでピントを合わせます



図のように、フォーカス モードレパーには2つのポ ジションがあります。オー トフォーカスで使うには、 フォーカスモードレバーを AF に合わせます。

## フォーカスモードレバーについて

- AF =オートフォーカス シャッターボタンを押すとレンズが自動的に動いて、 ピントが合うとシャッターが切れるようになる、最も 一般的なオートフォーカスモードです。
- MF =マニュアルフォーカス 手動でピントを合わせるときに使用します。オートフォーカスの苦手な被写体などのときに合わせます。 [38ページ参照]

1



2



- 1. 写真のように、AFフレーム [ ] を写したいもの に合わせシャッターボタンを半押しします。
- ピントが合うと、図のようにファインダー内の か光って、「ピピッ」と電子音が鳴ります。
- \* 電子音を消すことができます。[59 ページ参照]
- \* オートフォーカス作動中は、レンズの距離リングに手 をかけたり回転を妨げたりしないでください。
- 撮影距離が近すぎる
- オートフォーカスの苦手な被写体の場合[38ページ参昭]

基本的な使い方



1

- 3. さらにシャッターボタンを押し切ると撮影できます。
- \* ピントが合うまでシャッターは、切れません。
- \* 一度ファインダー内の □ が点灯すると、ピントが 固定されますから、別のものにピントを合わせ直すと きは、シャッターボタンから指を離して押し直してく
- \* SMCペンタックスFソフト85mm F2.8レンズを使用するときは、絞りをF2.8~F4.5で撮影してください。[38ページもご覧ください]
- \* 構図上、AFフレーム [ ] がピントを合わせたい ものから外れる場合は、「フォーカスロック撮影[30 ページ参照]」をしてください。

## 動体予測

シャッターボタン半押しでピント合わせをしているとき に、カメラが被写体を動体と判断すると、自動的に動体予 測に切り替わります。この場合には、レンズが連続的に駆 動し、常に被写体にピントを合わせ続けます。

\* 被写体が速すぎるときには、シャッターが切れないことがあります。





3

2



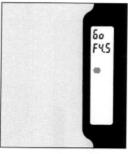
フォーカスロック撮影について

ピント合わせは画面中央のAFフレーム [ ] で行なわれます。

構図によって、ピントを合わせたいものが画面中央に来ないときは、フォーカスロック[ピント一時固定]撮影をするとピントの合ったきれいな写真が撮れます。

- 1. A F フレーム [ ] が外れたままで撮影すると、写真のように後ろにピントが合ってしまいます。
- ピントを合わせたいものにAFフレーム [ ] を合わせて、シャッターボタンを半押し状態にして を点灯させたままにしておきます。[ピントを記憶させる操作です。]
- 3. シャッターボタンを半押しのまま、元の構図に戻して、 さらにシャッターボタンを押し切って撮影します。
- \*シャッターボタンから指を離して、ファインダー内の つが消えると、フォーカスロックは解除されます。
- \*撮影距離を変えるときは、一度シャッターボタンから指 を離して、フォーカスロックをやり直してください。
- フォーカスロックは1コマ撮影をすると解除されます。

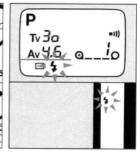




シャッターボタンを半押しすると、ファインダー内と表示 パネルにシャッター速度と絞り値が表示されます。さらに シャッターボタンを静かに押し切って撮影します。シャッ ターを切ると、自動的にフィルムが巻き上げられ、表示パ ネルの枚数表示が1コマずつ進みます。

- \*被写体が暗い場合や逆光の場合には、ファインダー内に 」のストロボお勧めマークが点滅し、カメラがストロボの使用をお勧めします。[表示パネルにも」が点 滅表示します。]
- \*ストロボお勧めマークが出た場合には、内蔵ストロボを 使って撮影しましょう。[32ページをご覧ください。]
- \*標準撮影のときは、パノラマシグナル ■■ が消えていることを確認してください。



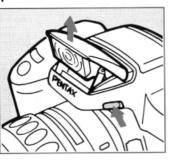


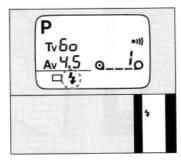
ストロボお勧めマークについて

カメラの露出モードをプログラム・絞り優先自動露出で使用した場合、写したいものが暗い場合や逆光のときに、ファインダー内と表示パネルに ① の点滅 [ストロボお勧めマーク]が出て、ストロボの使用を勧めます。なお、シャッター優先自動露出では、逆光時のみストロボお勧めマークがでます。

(31)

1







- 図のように、ストロボスイッチを押して、ストロボを上 に飛び出させます。
- \*シャッターボタンを半押しすると、表示パネルとファインダー内にストロボ同調速度と絞りが表示されます。
- さらにシャッターボタンを押してストロボ撮影をします。撮影後、内蔵ストロボは矢印部分を押して収納してください。



## [ISO100とき]

使用レンズの開放絞り値	撮影距離範囲
F 1.4	0.9~4.6m
F2	0.8~3.9m
F 2.8	0.7~3.3 m
F3.5, F4.7	0.7~2.7m
F 5.6	0.7~2.3m

## プログラムTTLオートストロボで撮影できる 範囲の目安

ストロボ撮影できる距離は、上表のように、ご使用になるレンズの開放絞り値により変化しますのでご注意ください。開放絞り値は、レンズに $\begin{bmatrix} 1 & 1.4 \end{bmatrix}$ のように表示されています。 $\begin{bmatrix} F & 1.4 \end{bmatrix}$ の場合

- \*露出モードがプログラム自動露出の場合、内蔵ストロ ボはプログラム TTL オートストロボとして働きます。
- \* プログラムTTLオートストロボで撮影できる最短距離は、レンズの開放絞り値がF4.5より暗いレンズを使用しても約0.7mと一定になります。
- \* 0.7mより近距離で撮影すると露出が正しく制御されません。また、ケラレが出たりしますのでご注意ください。

## ご使用上の注意

## レンズが不適切な場合の警告表示

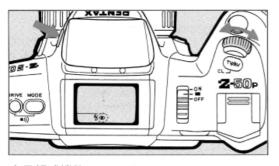
下記のFおよびFAレンズを使用すると、充電が完了してからシャッターボタンを半押しすると表示パネルの「1) やファインダー内の「1)が点滅して警告します。

- レンズの焦点距離が28mm未満の場合
- レンズの焦点距離が300mm以上の場合 [FAズーム100~300mmの300mmを除く]

上記の範囲内でも一部F・FAズームレンズの焦点距離では警告が出ることがあります。

警告が出た状態で撮影すると、画面の四隅が暗くなるケラレが出たり、画面下部に半円形のケラレが出たりしますのでご注意ください。FA・Fレンズ以外を使用した場合は警告表示がされませんから、特にご注意ください。

- \*レンズフードは、ストロボの光路を遮ることがあります ので使わないでください。
- \*Fズーム24~50mmレンズの場合、焦点距離が28~ 35mmでは警告が出ますが、ご使用いただけます。
- \*FAズーム28~105mmレンズの場合、焦点距離が約35~40mmでは警告は出ませんが、ケラレが発生することがありますので1m以上の距離で撮影してください。
- \*FAズーム28~70mmレンズでは、全範囲でケラレが 発生します。
- \* FAズーム80~200mm レンズは、焦点距離を135mm 以上にすれば使用できます。



## 赤目軽減機能について

Z-50 Pには、ストロボ2度発光による赤目軽減機能が付いています。

シャッターが切れる直前にストロボ発光[小光量]が行なわれ、瞳径を小さくしてからストロボ撮影をするので、目が赤くなるのを目立たなくすることができます。

## セット方法

ストロボスイッチを押したまま表示パネルの 4 以外の表示が消えたらセレクトダイヤルを回して表示パネルに ® を表示させます。

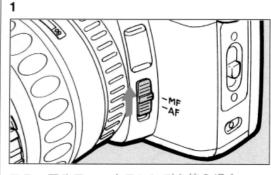
- \*赤目軽減機能とAF500FTZなどのストロボのスレーブ機能を組み合わせて撮影をすると、1度目のプリ発光で外付けストロボが発光してしまいますので、スレーブ使用時は赤目軽減機能は使わないでください。
- \*外付けストロボのみを使用しているときは、表示パネルに が表示されていてもストロボ2度発光による赤 目軽減機能は働きません。
- \*赤目軽減機能の解除は、ストロボスイッチを押したままセレクトダイヤルを回して表示パネルの 表示を消してください。

## 赤目現象について

一般に「赤目現象」といわれ、暗い中で人物のストロボ撮影を行なったときに、目が赤く写る現象です。これは、ストロボの光が目の網膜に反射するために起こる現象と言われています。赤目を完全に防ぐことはできませんが、できるだけ周りを明るくして撮影するか、ズームレンズを使用している場合には広角側にして近距離で撮影するなどの方法を利用すると軽減することができます。外付けのストロボをご使用のときは、ストロボをできるだけカメラから離すと効果があります。

# 応用的な使い方

# (1) 手動によるピント合わせ



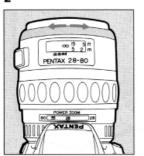
マニュアルフォーカスレンズを使う場合 従来のKAやKマウントレンズで、開放F値がF5.6以上の明るいレンズ[F1.2~5.6]を使うと、ファインダー内の合 焦マーク ② を利用した手動ピント合わせができます。

1. フォーカスモードレバーを **MF** にセットします。

使い方



2



3

III 応用的な使い方

- δο FYS
- ファインダーを覗きながらシャッターボタンを半押しした状態で、レンズの距離リングを左右に回してください。
- ピントが合うとファインダー内の合焦マーク が 点灯して知らせます。そのままシャッターボタンを押し 切って撮影してください。

- \*KAFおよびKAF2マウントレンズを使用しても、 フォーカスモードレバーを MF にセットすると同じ 操作になります。
- \*旧タイプのねじ込み取り付け式レンズを別売りの「マウントアダプターK」で取り付けても、ファインダー内の 合焦マーク □ によるピント合わせはできません。
- \* ビントが合うと、ファインダー内の合焦マーク の点灯と同時に「ビビッ」と電子音が鳴りますが、 電子音を消すこともできます。[59 ページ参照]



オートフォーカスが使えない場合

以下の理由で、オートフォーカスやファインダー内の合焦 マーク が使えない場合は、ファインダーのマット 面を利用して従来の一眼レフカメラと同様に手動でピント 合わせをしてください。

- a)「オートフォーカスの苦手な被写体」で合焦マーク が点滅するとき。
- b) 開放 F 値が F 5.6より 暗いレンズを使っているとき。
- c) ベローズ100mmF4、シフト28mmF3.5[シフト状態]、 レフレックスタイプのレンズを使用したとき。
- d) 旧タイプのねじ込み取り付け式レンズを別売りの「マウントアダプターK」で取り付けて使用したとき。

## 使い方

- 1. フォーカスモードレバーを MF にセットします。
- ファインダーを覗きながら、レンズの距離リングを左右 に回してファインダー内の映像が最もはっきり見えるようにピントを合わせ、撮影してください。

スナップインフォーカス撮影について

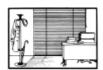
KAおよびKマウントレンズを使用して、フォーカスモードレバーを AF にセットすると、別売りのケーブルスイッチFを利用してピントが合ったときに自動的にシャッターが切れるスナップインフォーカス撮影ができます。

- 1. レンズはKAおよびKマウントレンズを使用します。
- 2. フォーカスモードレバーを AF にセットします。
- 3. 写したいものが通りそうな位置にピントを合わせます。
- ケーブルスイッチFを使って、シャッターボタンを押し切った状態にします。
- 写したいものがピントを合わせた位置に来ると、自動的 に撮影されます。



# (2) オートフォーカスの苦手な被写体









オートフォーカス機構はきわめて高精度のものですが、万能ではありません。被写体の明るさ・コントラスト・形状・大きさなどによって、ピントが合わない場合があります。ファインダー内の合焦マーク つる利用してピント合わせを行なう手動ピント合わせも同様です。そんなときは、被写体とほぼ等しい距離にあるものにフォーカスロックをしたり、フォーカスモードレバーを MF にセットして、従来の一眼レフカメラと同様にファインダーのマット面を利用して手動ピント合わせを行なってください。

- a) A F フレーム [ ] に白い壁などの極端にコントラスト[明暗差]の低い被写体がある場合。
- b) AFフレーム [ ] に光を反射しにくい被写体がある場合。
- c) 非常に速い速度で移動している被写体。



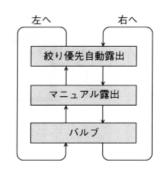
- d) A F フレーム [ ] に横線のみの被写体や細かな模様の被写体がある場合。
- e) 遠近のものがAFフレーム [ ] の中で同時に存在 する場合。
- f) 反射の強い光、強い逆光[周辺が特に明るい被写体]。アクセサリーの注意

以下の条件では、オートフォーカスやファインダー内の合 焦マーク ○ を利用した手動ピント合わせができませ ん。ファインダー内のマット面で手動ピント合わせをして ください。

- a) 特殊なフィルターや「マジックイメージアタッチメント」・「ステレオアダプター」などを使った場合。
- b) オートフォーカス機構の一部にハーフミラーを使用して いますので、一般の偏光フィルターを使うとオート フォーカスの精度が低下します。オートフォーカスで使 用するときには円偏光フィルターをご利用ください。
- c)「接写リング」や「オートベローズ」を使った拡大接写 撮影の場合。

SMCペンタックスFソフト85mmF2.8使用時の注意

約1.5mより近距離の撮影をするときは、レンズの絞りをF 2.8~4.5でご使用ください。これより小絞り[F5.6~32]にすると、カメラのオートフォーカス[FIも同様]が誤合焦することがあります。F5.6より小絞りを使う場合には、一旦レンズの絞りをF4.5に合わせてピント合わせを行ない、フォーカスロックをしたまま希望の絞りに回して撮影してください。



電源スイッチを ON [フルスペックポジション] にすると、絞りが A 位置のままでも全ての露出モードを選ぶことができます。 従来のように露出モードによって、絞りの位置を切り替える必要がありません。

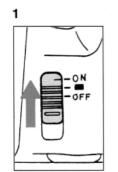
## 露出モードの変え方

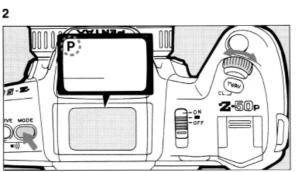
Z-50 Pのフルスペックポジションには5つの露出モードがあり、モードボタンを押しながらセレクトダイヤルを回すと矢印の順で露出モードを変えられます。各露出モードについては、それぞれのページの説明をご覧ください。

以下の場合には、絞りをA位置から外してご使用ください。なお、Aレンズより前のレンズ[Aポジションのないレンズ]を使用する場合も同様の扱いになります。

- 接写リングなど、絞りの連動がきかないアクセサリーを 使用した場合。
- 旧タイプのストロボで、絞りがA位置で使えないもの。 絞りが A 位置以外では、図のように3つの露出モードが 選べ矢印の順で変化します。 モードの変え方は、絞りが A 位置の場合と同様です。







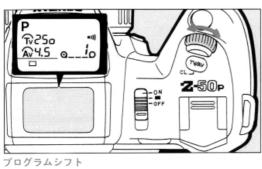


プログラム自動露出の使い方

プログラム自動露出は、カメラが自動的に露出を決定しますので、シャッターボタンを押すだけで簡単に撮影が楽しめます。

絞りをA位置にします。

- 1. 電源スイッチを ON にします。
- 2. モードボタンを押しながらセレクトダイヤルを回して、 表示パネルに **P** のマークを出します。
- 3. シャッターボタンを半押しすると、ファインダー内と表示パネルにシャッター速度と絞りが表示されます。



プログラムシフトとは、 露出を変えずにシャッター速度 と絞りの組み合わせだけを変えることです。

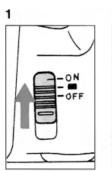
セレクトダイヤルを右に回すとシャッター速度が速い方向 [絞りは開放側]に、左に回すとシャッター速度が遅い方向 [絞りは小絞り側]にシフトします。

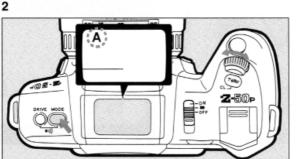
- \*プログラムシフトを行うと、表示パネルの Tv と Av マークの上に へが付いて知らせます。また、ファ インダー内のシャッター速度と絞り値の下に横棒が点 灯して知らせます。
- \*プログラムシフトを解除するときは、Tv/Av ボタン を押してください。
- \*プログラムシフトができるのは、 適正露出が得られる 範囲内だけです。 この範囲を越えてのシフトはできま せん。

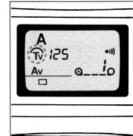


被写体が明るすぎたり暗すぎるときは、図のようにファイ ンダー内や表示パネルの表示が点滅して警告します。明る すぎるときは、NDフィルターなどをご利用ください。暗 すぎるときは、ストロボなどをご利用ください。

(41)







シャッター優先自動露出の使い方

希望のシャッター速度に合わせると、被写体の明るさに応 じて絞りが自動的に変わり、適正露出が得られます。速い 速度で動きを止めたり、遅い速度で動感を出すのに適して います。[83ページ参照]

絞りをA位置にします。

- 1. 電源スイッチを ON にします。
- 2. モードボタンを押しながらセレクトダイヤルを回し て、表示パネルにAを表示させます。

3

3. T v / A v ボタンを押して表示パネルのT v マークの 上に を表示させます。



- 4. セレクトダイヤルでシャッター速度を変えます。
- \*このとき、ファインダー内のシャッター速度表示の下に も横棒が表示されます。
- \*セレクトダイヤルを右に回すとシャッター速度が速くな り、左に回すと遅くなります。
- 5. シャッターボタンを半押しすると、ファインダー内と表 示パネルにシャッター速度と、絞りが表示されます。

\*

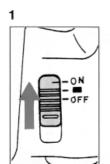


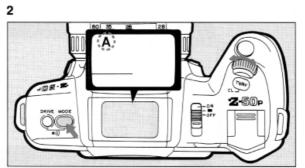
### ※露出警告

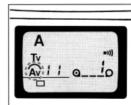
被写体が明るすぎたり暗すぎるときは、図のようにファイ ンダー内や表示パネルの絞り値表示が点滅して警告しま す。明るすぎるときはシャッター速度を速く、暗すぎると きはシャッター速度を遅くして点滅が止まれば撮影できま す。

なお、シャッター速度表示と絞り値表示の両方が点滅した 場合は測光範囲外です。NDフィルター[明るい場合]やス トロボ[暗い場合]などをご利用ください。

(43)







## 絞り優先自動露出の使い方

希望の絞りを合わせると、被写体の明るさに応じてシャッ ター速度が自動的に変わって適正露出が得られます。ピン トの合う範囲を広くしたい風景写真や、背景をぽかしたい 人物の撮影などに適しています。[84ページ参照]

## 絞り A 位置の場合

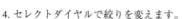
- 1. 電源スイッチを ON にします。
- 2. モードボタンを押しながらセレクトダイヤルを回して、 表示パネルに A を表示させます。

3

3. T v / A v ボタンを押して表示パネルの A v マークの上 に「ヘ」を表示させます。

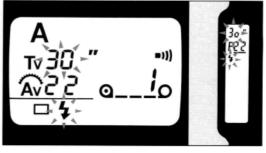






- \*このとき、ファインダー内の絞り値表示の下にも横棒が 表示されます。
- \*右に回すと小絞り側に[数字の大きい方]、左に回すと開 放絞り側[数字の小さい方]になります。
- 5. シャッターボタンを半押しすると、ファインダー内と表示パネルにシャッター速度と、絞りが表示されます。

\*

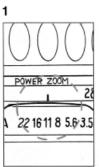


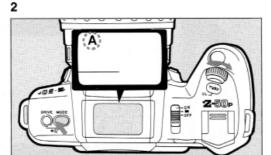
## ※露出警告

被写体が明るすぎたり暗すぎるときは、図のようにファインダー内や表示パネルのシャッター速度表示が点滅して警告します。明るすぎるときは絞りを小絞り側[数字の大きい方]に、暗すぎるときは絞りを開放側[数字の小さい方]にして点滅が止まれば撮影できます。

なお、シャッター速度表示と絞り値表示の両方が点滅した場合は測光範囲外です。NDフィルター[明るい場合]やストロボ[暗い場合]などをご利用ください。

**45**)



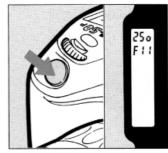




絞りがA位置以外でも絞り優先自動露出が使えます。

- 1. 絞りをA位置以外の好みの位置にします。
- 2. モードボタンを押しながらセレクトダイヤルを回して、 表示パネルに A のマークを出します。
- 3. シャッターボタンを半押しすると、ファインダー内と表示パネルにシャッター速度が表示されます。
- \*FAおよびFレンズの場合、シャッターボタンを半押し すると表示パネルとファインダー内に設定絞りの目安表 示をします。他のレンズの場合は、表示されません。
- \*レンズ情報接点のないレンズ[Mレンズ以前]で絞り優先 自動露出を使用したときは、分割測光にならず、中央重 点測光になります。

3



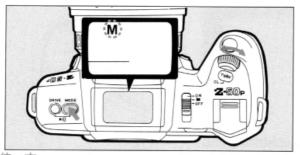
\*Aレンズ50mm F1.2の場合、絞りA位置以外では分割測光にならず中央重点平均測光になります。また、露出が1~1.5 EVオーバーになりますので、絞りをA位置にするか露出補正[マイナス補正]をご利用ください。

## ※露出警告

露出警告は、絞りがA位置のときと同じですから45ページ を参照してください。

(46)

2





マニュアル露出の使い方

露出計の指示に従って、シャッター速度や絞りを調節すれば、適正露出が得られますが、撮影者の作画意図に合わせた露出で撮影することもできます。マニュアル露出では48ページに示すようにファインダー内中央部の限られた範囲だけで露出を測るスポット測光になりますので、写したいもの[露出を測りたいもの]にこの範囲を合わせて露出を測ってください。

マニュアル露出時にハイパーボタンを押したままシャッター ボタンを押すと、シャッター速度や絞り値が明るさによっ て変化しますので、シャッター優先自動露出や絞り優先自 動露出と同じ使い方ができます。

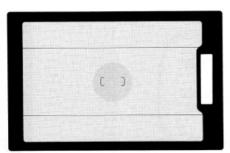
## 絞りをA位置にした場合

- 1. 電源スイッチを ON にします。
- モードボタンを押しながらセレクトダイヤルを回して、表示パネルに M のマークを出します。
- \*表示パネルにシャッター速度と絞り値およびバーグラフ が表示されます。
- 3. シャッターボタンを半押しすると、ファインダー内に シャッター速度、絞り値とバーグラフが表示されます。

**47**)

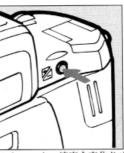
4

(48)



- 4. 露出を測りたいものを画面中央部の範囲に合わせます。
- \*スポット測光では、画面中央部の狭い範囲だけで露出を 測っています。この部分と他の部分の明暗差が大きい場 合には、全体の明るさを考慮して露出を決めないと、不 自然な写真になってしまうことがあります。

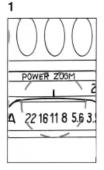


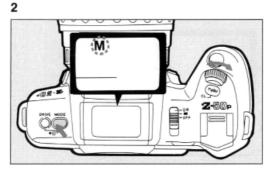


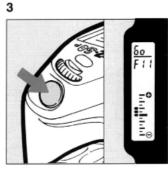


- \*シャッター速度を変化させたいときは、T v / A v ボタンを押して表示パネルのT v マークの上に つを表示させてから、[このときファインダー内のシャッター速度の下にも横棒が表示されます]セレクトダイヤルを回してください。右に回すとシャッター速度は速くなり、左に回すと遅くなります。
  - 絞り値を変化させたいときは、 $T \vee / A \vee \pi / y \sim x$  を表示させて て表示パネルの $A \vee x \sim y \sim y \sim y$  を表示させて から、[このときファインダー内の絞り値の下にも横棒 が表示されます]セレクトダイヤルを回してください。 右に回すと絞りが絞られ、左に回すと開放側になります。
- \* 黒丸が □ 側に並んでいるときは露出がアンダー、
  □ 側に並んでいるときは露出がオーバーです。
  バーグラフの1目盛りは0.5 EVに相当します。ただし、±3 E V を超えてオーバー、アンダーになったときは、□ あるいは□ が点滅表示します。





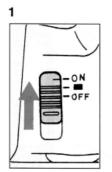


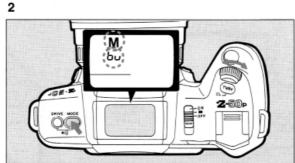


絞りをA位置以外にした場合[電源スイッチは ON にします]

- 1. 絞りをA位置以外の好みの位置にします。
- モードボタンを押しながらセレクトダイヤルを回して、 表示パネルに M のマークを出します。
- \*表示パネルにシャッター速度とバーグラフが表示されま す。
- 3. シャッターボタンを半押しすると、ファインダー内に シャッター速度とバーグラフが表示されます。 絞りリングで絞りを、セレクトダイヤルでシャッター速 度を変えます。
- \*FAおよびFレンズの場合、シャッターボタンを半押し すると表示パネルとファインダー内に設定絞りの目安表 示をします。他のレンズの場合は、表示されません。
- \*露出の合わせ方は、絞りがA位置の場合と同じです。
- \* ② ハイパーボタンを押すと、シャッター速度が切り 替わり、即座に適正露出が得られます。[ハイパーマ ニュアル]
- \*Aレンズ50mmF1.2の場合、絞りA位置以外では露出が1 ~1.5EVオーバーになりますので絞りをA位置にしてお 使いください。









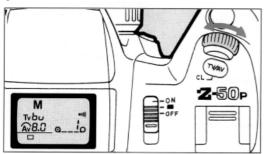
バルブの使い方

花火、夜景などの撮影で長時間シャッターを開いておく必要のあるときにご利用ください。シャッターボタンを押している間、シャッターが開き続けます。

絞りA位置の場合

- 1. 電源スイッチを ON にします。
- 2. モードボタンを押しながらセレクトダイヤルを回して、 表示パネルに M と bu のマークを出します。
- \*表示パネルに絞り値が表示されます。

3. シャッターボタンを半押しすると、ファインダー内に **bu** と絞り値が表示されます。



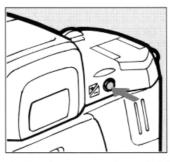
- 4. セレクトダイヤルで絞りを選びます。
- \*セレクトダイヤルは、右に回すと小絞り側に[数字の大きい方]、左に回すと開放絞り側[数字の小さい方]になります。

絞りをA位置以外にした場合

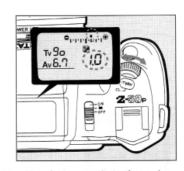
- 1. 電源スイッチを ON にします。
- 2. 絞りをA位置以外の好みの位置にします。
- 3. モードボタンを押しながらセレクトダイヤルを回して、 表示パネルに M と bu のマークを出します。
- 4. シャッターボタンを半押しすると、ファインダー内に **bu** が表示されます。
- \* FAおよびFレンズの場合、シャッターボタンを半押し すると表示パネルとファインダー内に設定絞りの目安表 示をします。他のレンズの場合は表示されません。
- \*バルブで撮影するときは、ぶれ防止のためしっかりした 三脚を使用し、別売りの「ケーブルスイッチF」をレ リーズソケットに差し込んでご利用ください。
- \*新品のリチウム電池[常温]で、約12時間の長時間露出が できます。

(51)

# (4) 露出補正について





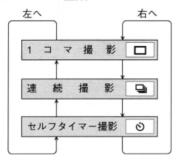


- 意図的に露出オーバー [明るい写真] や露出アンダー [暗い写真] にしたいときなどに露出を補正するために使います。 ハイパーボタン [2] を押すと表示パネルに補正値とバーグラフおよび [3] が表示されます。 ハイパーボタンを押しながらセレクトダイヤルを回して希望の補正値を選んでください。
- \*露出補正はマニュアル露出・バルブおよびグリーンポ ジションでは働きません。
- \*補正値は、-3~+3EVの範囲で0.5EVごとに行えます。
- \*露出補正中は、補正値が表示パネルおよびファイン ダー内のバーグラフに黒丸で表示されます。また、表 示パネルおよびファインダー内に 図 も表示されま す。
- \*ハイパーボタンを押しながらTv/Avボタンを押す と、補正値が0になり露出補正は解除されます。
- \* 電源スイッチを切ったり、他のモードにしても露出補正 は解除されません。



Z-50Pには、表のように3種類のドライブモードがあります。

## ドライブモードの種類



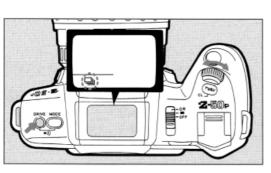
: シャッターボタンを押し切ると、1コマだけ シャッターが切れます。

□ : シャッターボタンを押し切っている間、連続的 にシャッターが切れます。

○ : セルフタイマー撮影をします。

ドライブモードの変更方法 ドライブボタンを押しながら、セレクトダイヤルを回して 希望のドライブモードを選択します。



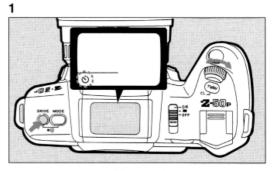


## 1) 連続撮影

シャッターボタンを押している間、連続的にシャッターが 切れます。

ドライブボタンを押しながらセレクトダイヤルを回して、 ドライブモードを連続撮影 💁 に変更してから撮影を します。

\*ピント合わせは1コマ毎に行われます。ただし、ピント が合わないとシャッターは切れません。



## 2) セルフタイマー撮影の使い方

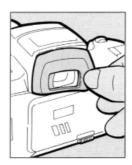
セルフタイマー撮影は、撮影者も入って記念撮影などをするときに使います

ドライブボタンを押しながらセレクトダイヤルを回して、ドライブモードをセルフタイマー の に変更します。





- 2. シャッターボタンを半押しして写したいものにピントを 合わせたままシャッターボタンを押し切るとセルフタイ マーが始動し、約12秒後にシャッターが切れます。
- \* セルフタイマーの作動中は電子音で知らせ、シャッター が切れる約2秒前から、電子音も速い断続音「ビッビッ ピッ | になります。
- \*セルフタイマーを始動後に中止したいときは、電源ス イッチを OFF にしてください。
- \* セルフタイマー撮影時は、ファインダーからの逆入光に よる露出に影響を受ける場合がありますので、付属の ファインダーキャップをご利用ください。

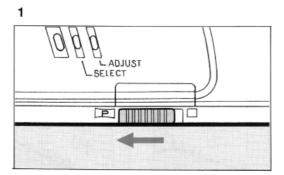




- \*「視度調整レンズM」や「ファインダーキャップ」など のアクセサリーを使うときは、アイカップFEを取り外 して使います。
- アイカップ Γεは、カメラのアクセサリー取り付け溝に取 り付けられています。
- \*アイカップと視度調整レンズを併せて使いたいときは、 別売りの「アイカップMII」と「67用視度調整レンズ」 を組み合わせてください。
- \*バルブと組み合わせて、シャッターが切れる前にシャッ ターボタンから指を離すと、1/60秒のシャッター速度に なります。



# (6) パノラマ撮影

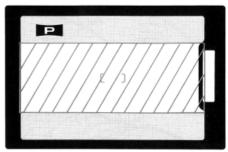


[Z-50P] では、撮影途中でも自由にパノラマと標準撮 影とを切り替えることができます。

パノラマ撮影では横長 [フィルム上では13×36mm] に 写りますので、 パノラマプリントにするとダイナミック な写真が楽しめます。

- 1. パノラマ撮影に切り替えます
  - パノラマ切り替えスイッチを「戸」に合わせるとパ ノラマ撮影モードになります。
- \*パノラマ切り替えスイッチのセットは、パノラマ撮影 ▶ か標準撮影 □ どちらかの止まる位置まで確 実に動かしてください。 スイッチを途中の位置にする と、画面がケラレてしまうことがあります。

2



## 2. 撮影します

パノラマの視野枠内 [斜線部分] に写したいものを入 れて撮影してください。

- \* シャッターボタンを半押しすると、ファインダー内に
- \* プリントする際に画面周辺でフィルムに写っていた ものが切られてしまうことがあります。構図を決める ときに少し余裕を取っておくと安心です。
- \* パノラマ撮影モードでは、デートを写し込み可能な状 態にしても、デートは写し込まれません。

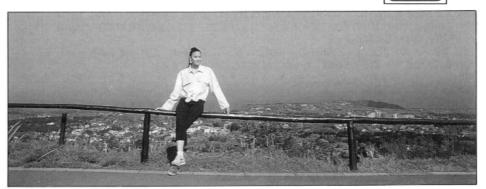


## パノラマプリントについて

パノラマモードで撮影されたフィルムの現像 / プリントをご依頼になるときは、必ず付属のパノラマシールをフィルム [パトローネ] に貼り、パノラマプリントとご指定ください。

- ・ パノラマと標準撮影を途中で切り替えて 撮影した場合
  - 混在パラマ/緑
- フィルム全数をすべてパノラマで 撮影した場合 → \_\_\_\_\_\_



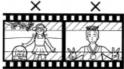




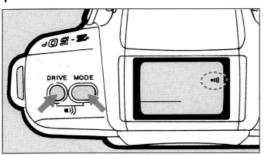
- \*バノラマモードで撮影した場合、通常の同時プリントに比べ日数、料金がかかります。 詳しくは、お店でおたずねください。
- \*バノラマ/標準混在の場合、お店によっては同時に仕上がらないことがありますので、現像のみを先に仕上げてプリントを依頼するなどの方法がありますので、お店にご相談ください。
- \*パノラマ撮影では、図のように標準撮影のフィルム1コマ分の上下をカットするだけですから撮 影枚数は、標準撮影のときと同じです。



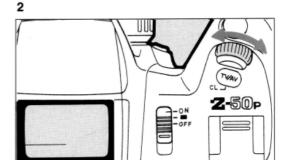
- \*パノラマモードで撮影したフィルムを通常サイズのプリントにすると、上下に黒い帯が写し込まれます。
- \*バノラマプリントされるのはフィルム中央部のおよそ 12mm×35mm の範囲で、フィルム上に写し込まれる範囲は、これより若干広くなりますが、ファインダーで見える範囲はパノラマプリントされる範囲とほぼ同じになります。
- \*バノラマプリントはおよそ89×254mmのサイズにプリントされます。これは標準撮影されたフィルムを六ツ切りサイズに引き伸ばしたものとほぼ同じ倍率になります。
- \*標準撮影のときは、必らずファインダー内のパノラマシグナル が消えていることを確認してください。



1



1. モードボタンとドライブボタンを同時に押して、表示 バネルの表示を [•II] 表示のみにします。



- モードボタンとドライブボタンを押したままセレクト ダイヤルを回して、表示パネルの ● 表示を消します。
- \* この状態では、ピントが合っても電子音は鳴りません。
- \* 電子音を鳴らすには、同様にセレクトダイヤルを回して表示バネルに「\*\*\*」を表示させます。

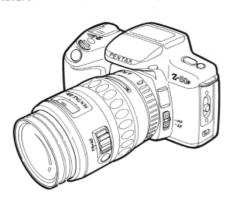


# (8) パワーズームの拡張機能

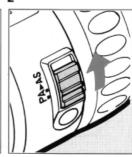
FA ズームレンズをZ-50 pと組み合わせると、 次のオートズーム機能を使うことができます。

FA ズームレンズ以外では、オートズーム機能は使えません。

- ①ズームクリップモード
- ②イメージサイズ指定モード
- ③露光間ズームモード

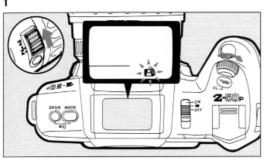


2 (5) 3 fr (5) 3 fr (7) 5 (7) 7 (7)



オートズーム機能を使うための準備

- 1. レンズのズームリングを前側に押し出すようにして、図 のように POWER ZOOM が見える状態にします。
- \*工場出荷時は、この状態です。
- レンズのオートズームスイッチを A (一部レンズでは AZ) に合わせます。
- \*これで、各種オートズーム機能が使える状態になりま す。各機能の使い方については、それぞれのページをご 覧ください。



①ズームクリップモードの使い方

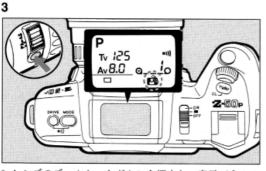
ズームクリップモードは、カメラに焦点距離をあらかじめ 記憶させておくことで、必要なときにボタン一つでその焦 点距離を呼び出す機能です。

例えば、動きの激しいスポーツ写真で、予測される場面の 撮影範囲[焦点距離]を記憶させておけばシャッターチャン スをつかむのに有利になります。



- 1. レンズのオートズームスイッチを **AS** (一部レンズで は MODE ) 側に押し付けたままセレクトダイヤルを 回して、表示パネルに 📵 マークを点滅させてくだ さい。
- \* ズームクリップモードを解除するときは、オートズー ムスイッチを [P] (一部レンズでは [PZ] ) に戻してく
- 2. ファインダーを覗きながら、ズームリングを回して、好 みの撮影範囲[焦点距離]に合わせます。
- \*このとき、自動的にピント合わせも行われます。ただし、 □ マークと合焦音は出ません。

(61)



- 3. レンズのズームセットボタンを押すと、表示パネルの ■ マークが点灯に変わり、焦点距離が記憶されま す。
- \*新たに焦点距離を記憶させた場合は、前の内容は消えて しまいます。
- \*電源スイッチを OFF にしても、記憶した内容は消 えません。なお、電池を入れ直すと記憶していた内容は 消えてしまいますのでご注意ください。
- \*電源スイッチが ON または のままレンズを 外したり、レンズの交換をすると記憶している内容が消 えてしまいます。記憶した内容を残したい場合は、電源 スイッチを OFF にした状態で行ってください。



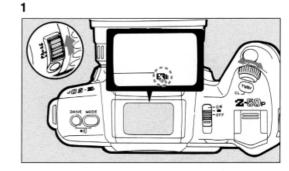
4

- 4. ズームセットボタンを押すと記憶した焦点距離になりま すので、シャッターボタンを押して撮影をしてくださ Vi.
- \*ズームセットボタンを押すと自動的にピント合わせも行 われます。ただし、 〇 マークと合焦音は出ませ  $\lambda_{\circ}$

## ②イメージサイズ指定モードの使い方

ファインダーを覗きながら構図を決め、そのときのイメージサイズ[撮影倍率]をカメラに記憶させることによって、撮影距離が変わっても常に記憶させたイメージサイズ[撮影倍率]になるように、カメラが自動的にズーミングする機能です。

例えば、近づいたり遠ざかったりする子供を、同じ大きさ で撮影することができます。



- 1. レンズのオートズームスイッチを AS (一部レンズでは MODE) 側に押し付けたままセレクトダイヤルを回して、表示パネルに □マークを出します。
- \*フォーカスモードレバーが MF になっていると、イ メージサイズ指定モードは使えません。

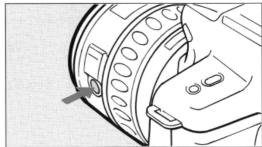


2



- 2. ファインダーを覗きながら、ズームリングを操作して好 みの位置までズーミングします。
- \*このとき、自動的にピント合わせも行われます。ただし、 〇 マークと合焦音は出ません。





- レンズのズームセットボタンを押すと、その時点のイメージサイズをカメラが記憶します。
- \*このとき「ピピッ」と音がして、イメージサイズが記憶 されたことを知らせます。



- 4. シャッターボタンを半押しすると、撮影距離が変わって も被写体の大きさが一定になるように自動的にズーミン グします。ズーミングが終了してからシャッターボタン を押し切って撮影してください。
- \* イメージサイズ指定モードを解除するときは、オート ズームスイッチを P (一部レンズでは PZ) に戻し てください。
- \*ズーミング中にシャッターボタンを押し切ってしまう と、指定したイメージサイズになりません。シャッター ボタンは、ズーミングが終了してから押し切ってくださ い。

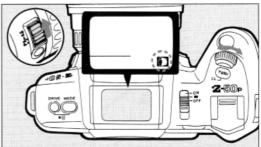
- \*撮影距離が近すぎたり遠すぎたりすると、ズームレンズ の焦点距離の作動範囲を超えてしまい、指定したイメー ジサイズになりません。また、他のレンズに交換した場 合も、前のレンズで記憶したイメージサイズで制御され ますので、指定したイメージサイズにならない場合があ ります。
- \*イメージサイズ指定モードのときにフォーカスモードレ バーを MF に切り替えると、ズームクリップモード に切り替わります。
- \*電源スイッチを OFF にしても、記憶されている内容 は消えません。
- \*電源スイッチが ON または のままでレンズ を外したり、レンズ交換をすると記憶している内容が消えてしまいますので、記憶した内容を残したい場合は、電源スイッチを OFF にした状態で行なってください。
- \*新たにイメージサイズを記憶させると、前の記憶内容は 消えてしまいます。
- \*イメージサイズを決めるときには、使用するズームレンズの中間付近に焦点距離を設定すると、利用範囲が広がり使い易くなります。例えば、焦点距離が28~80mmのレンズでしたら焦点距離を50mm付近にすると便利です。
- \*電池を抜くと記憶している内容は消えてしまいますので、ご注意ください。 65



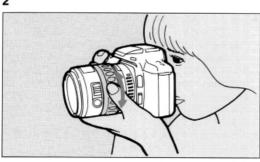
③露光間ズームモードの使い方 露光間ズームは、シャッターを開いて露光を行なっている間に広角側から望遠側にオートズーミングすることによっ

間に広角側から望遠側にオートズーミングすることによって、被写体映像の芯をとらえながら、輪郭を放射方向に流した写真を作ることができます。





- レンズのオートズームスイッチを AS (一部レンズでは MODE) 側に押し付けたままセレクトダイヤルを回して、表示パネルに □ マークを出してください。
- \* 露光間ズームモードを解除するときは、オートズームスイッチをP(一部レンズではPZ) に戻してください。
- \*プログラムシフトを行なっているときに露光間ズーム に切り換えると Tv と Av マークの上の 「ヘ」表示は 一時的に消えますが、シフト量はそのまま記憶されて います。

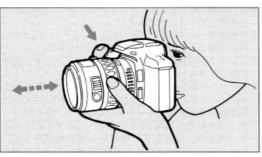


 ズームリングを操作し、撮影意図に合うような広角側の 焦点距離にしてください。

- \*焦点距離が最も望遠側になっている場合は、望遠側から 広角側にズーミングされます。
- \*露光間ズームの効果を出すために、なるべくシャッター 速度が遅くなるように露出を決めてください。
- \*プログラム自動露出では、できるだけシャッター速度 が遅くなるように露出が決定されます。
- \*シャッターを切ってから、オートズーミングが行なわれるタイミングは、そのときのシャッター速度の半分の時間が経過するまではズーミングしないで、後半[シャッター速度の残り時間]でオートズーミングを行ないます。例えば、シャッター速度を1秒に設定すると、シャッターを切ってから0.5秒間はズーミングしないで、後半の0.5秒間だけオートズームを行ないます。

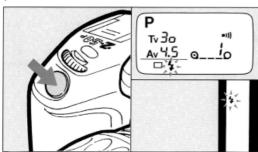






3. シャッターボタンを押し切ると、そのときのシャッター 速度に応じて露光間ズームを行ない撮影します。

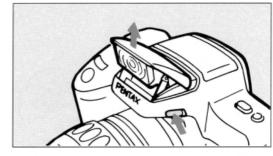
- \*シャッター速度が速いと、ズーミングする時間が短くなり、ほとんどオートズームされないので、露光間ズームの効果が得られません。例えば、28~80mmレンズの場合に28mmから80mmまでオートズームするのに約1秒かかりますので、シャッター速度を2秒以上に設定しないと28mm~80mmまでのズーミングはされません。なお、シャッター速度を遅くしすぎると、ズーミング終了後もシャッターが開いているため、被写体の芯が2つできることになります。
- \*ズーム比をあまり大きくすると、全体にまとまりの悪い 写真になりやすいのでご注意ください。
- \*露光間ズームモードでは、パワーズームの最大速度で ズーミングを行ないます。
- \*露光間ズームは低速シャッターで撮影しますので、三脚 などの利用をお勧めします。



Z-50pの内蔵ストロボは、周りが暗いときや、逆光のと きなどに、周りの明るさに合わせて、シャッター速度と絞 りが組み合わされますので、簡単にストロボ撮影ができま

- 1. プログラム自動露出にしてシャッターボタンを半押し します。
- \* 周りが暗いときや逆光のときは、表示パネルの 4 と ファインダー内の か点滅して、ストロボの使用を 勧めます。

2

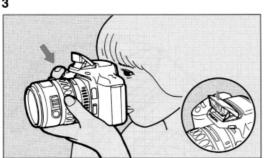


- 2. ストロボスイッチを押して、ストロボを上に飛び出させ
- \*充電が自動的に始まり、充電が終わると表示パネルに が表示されます。シャッターボタンを半押しする と、ファインダー内にも「・」が表示されます。
- \*ストロボ充電中は、シャッターは切れません。
- \*プログラムシフトを行なっているときに内蔵ストロボ を飛び出させると、Tv と Av マークの上の 🔼 表 示は一時的に消えますが、シフト量はそのまま記憶さ れています。





応用的な使い方



- 3. シャッターボタンを押し切ってストロボ撮影をします。
- \*シャッター速度は、1/100秒~1/30秒まで変化します。な お、シャッター速度の低速限界はご使用レンズの焦点距 離によって変化します。ただし、Aレンズ以前のレンズ 使用時は1/100秒固定となります。
- \*プログラム自動露出では、 セレクトダイヤルを回すこ とによりプログラムシフトを行い、 シャッター速度と 絞りの組み合わせを変えることができます。 シフト可 能な範囲は、シャッター速度が 1/100 秒以下で絞りが 連動する範囲内です。ただし、低速シャッターになる ことがありますので手ぶれにご注意下さい。
- \*撮影後、内蔵ストロボは矢印部分を押して収納してくだ さい。

シャッター優先自動露出を使うとき 1/100秒以下のシャッター速度を自由に調節してストロボ 撮影ができます。

シャッター優先自動露出のときは、周りの明るさに合わせ て自動的に絞り値が変化しますので簡単にストロボ撮影が できます。

絞り優先自動露出、マニュアル露出を使うとき ピントの合う範囲[被写界深度]を変えて撮影したいときや 撮影距離を遠くしたいときなどに、絞りを自由に調節して ストロボ撮影ができます。

絞り優先自動露出のときは、周りの明るさに合わせて自動 的にシャッター速度が変化しますので簡単にストロボ撮影 ができます。

\* 絞り優先自動露出では、シャッター速度が1/100秒~ 1/30秒まで変化します。なお、シャッター速度の低速限 界はご使用レンズの焦点距離によって変化します。ただ し、Aレンズ以前では1/100秒固定となります。 使用絞りから撮影距離を計算します

遠距離側の目安 GN÷使用絞り 近距離側の目安 遠距離側目安÷5 ただし、0.7m以下の距離では使えません。 ※GN=ガイドナンバー

撮影距離から使用絞りを計算します

## GN:撮影距離=使用絞り

計算で出た数字が「3」のようにレンズの絞り値にない値になったときは、一般的に数字の小さい方[2.8]にします。なお、GNは使用するフィルム感度[ISO]により下の表のようになります。

 ISO25 → G N 6.5
 ISO200 → G N 18

 ISO50 → G N 9.2
 ISO400 → G N 26

 ISO100 → G N 13
 ISO400 → G N 26

ここでISO100のフィルムを絞りF4.7で使うときの例をあげます。

ストロボの撮影距離範囲を計算します GN13÷F4.7=2.8m 2.8÷5=約0.56 従って、約0.7mから2.8mの範囲でストロボが使えます。





ストロボなし



ストロボ使用[日中シンクロ]

(72)

# 日中シンクロについて

プログラム自動露出、シャッター優先自動露出では、シャッター速度、あるいは絞り値が周りの明るさによって変化しますのでそのままストロボ撮影をするだけで簡単に日中シンクロができます。ただし、シャッター速度が 1/100 秒を超えるような明るさでは、背景が露出オーバーになりますのでご注意ください。

\*背景が明るい場合には、露出オーバーになることがあ ります。

(73)



低速シンクロについて

露出モードは、マニュアル露出とシャッター優先自動露出 が使えます。

マニュアル露出の場合

- 1. ストロボスイッチを押して、ストロボを飛び出させま す。
- 2. マニュアル露出にします。
- 適正露出になるように適当なシャッター速度と絞りを選んでください。
- 4. 撮影します。
- \*「1.」の操作は、どの時点で行なっても結構です。

シャッター優先自動露出の場合

- 1. シャッター優先自動露出にします。
- 2. 好みのシャッター速度を選びます。
- \*表示パネルとファインダー内の絞り値表示が点滅していると背景に対して適正露出になりませんので、点滅がなくなるシャッター速度を設定してください。
- 3. ストロボスイッチを押して、ストロボを飛び出させます。
- 4. 撮影します。
- \*低速シンクロの場合は、カメラぶれを防ぐため三脚をご 使用ください。

# (10) 外付けストロボの使い方

カメラの内蔵ストロボではパワーが足りないときは、外付けストロボを利用してください。[結婚披露宴やパーティーなどで便利です]



TTLオートモード付きストロボを使います。
1. カメラのホットシューカバーFεを外し、ストロボを取り付けます。
(74)

- 2. ストロボのモードを TTL オートにします。カメラの 撮影モードは、プログラム自動露出、絞り優先自動露 出のいずれかにセットします。
- 3. ストロボの電源スイッチを入れます。
- 4. ストロボの充電完了を確認します。ストロボの充電完了 ランプが点灯すると、カメラのシャッターボタンを半押 ししたときに、ファインダー内の 「」が点灯しますの で、ファインダーでも充電完了の確認ができます。
- \*充電が完了すると、シャッター速度は周りの明るさによって、1/100秒~1/30秒に切り替わります。 なお、シャッター速度の低速限界はご使用レンズの焦点 距離によって変化します。ただし、Aレンズ以前のレン ズ使用時は1/100秒固定となります。
- 5. ピントを合わせて撮影します。
- \*カメラの露出モードがシャッター優先自動露出およびマ ニュアル露出でも、内蔵ストロボと同様に外付けストロ ボが使えます。[70ページ参照]
- \*カメラの露出モードがシャッター優先自動露出、マニュ アル露出のときは低速シンクロ撮影が可能です。[73 ページ参照]
- \* プログラム自動露出では、セレクトダイヤルを回すことによりプログラムシフトを行ない、シャッター速度と絞りの組み合わせを変えることができます。シフト可能な範囲は、シャッター速度が 1/100 秒以下で絞りが連動する範囲内です。ただし、低速シャッターになることがありますので手ぶれにご注意ください。

# ストロボ機能一覧

カメラの機能	TYPE A	TYPE B	TYPE C	TYPE D	TYPE E
ストロボ充電完了で、ストロボの同調速度に自 動的に切り替わる。	0	0	0	0	0
プログラム自動露出、シャッター優先自動露出 では絞りが自動セットされる。	0	0	0	0	
ファインダー内でオートチェックができる。		0	0		
TTLオートストロボ撮影ができる。	0	0	0	○注1	
シャッター優先自動露出、マニュアル露出では 低速シンクロができる。	0	0	0	0	0
AFスポットビームが使える。		0	0		
後幕シンクロ撮影ができる。[注 2]	注3	0	0		
光量比制御モードで撮影できる。[注 2]		0			

TYPE A:内蔵ストロボ

TYPE B: AF500FTZ[注4]、AF330FTZ

TYPE C: AF400FTZ, AF240FT

TYPE D : AF400T, AF280T, AF200T, AF080C, AF140C,

AF200SA

TYPE E: AF200S, AF160, AF140

注1: AF200S<sub>A</sub>は不可

注2: 1/60秒以下になります。

注3: TYPE BまたはCストロボと組み合わせて後幕シン

クロ可能。

注4: マルチストロボ、スレーブ機能が働きます。

その他のストロボを使用した場合

- \*他社製ストロボを組み合わせると、故障の原因になる場合があります。ペンタックス専用オートストロボの使用をお勧めします。
- \*TYPE D [AF200S<sub>A</sub>を除く] のストロボで MS [マニュアルシンクロ]、 M [マニュアル] を使うときや TYPE E のストロボを使うときは、ストロボの計算 盤で求めた絞りに合わせて撮影してください。 プログラムおよびシャッター優先自動露出では、 絞りが変化してしまいますので使えません。



#### AF500FTZ

- 周りの明るさによってシャッター速度と絞りが変化しますので、日中シンクロ撮影にご利用いただけます。絞りとシャッター速度の変化に関しては内蔵ストロボと同様です。[69ページ参照]
- 暗くてオートフォーカスの苦手な被写体でも、AFスポットビームを自動的に投光しますので、オートフォーカスを働かせることができます。
- オートズーム機構付きですから、レンズの焦点距離に対応して自動的に照射角度が変化します。
- スレーブ機能[コードレス]がご利用できます。
- マルチ発光モードがご利用できます。
- 光量比制御モードがご利用できます。[77ページ参照]
- カメラがプログラム自動露出、シャッター優先自動露出、絞り優先自動露出であれば、ストロボのモードがマニュアルでも自動的に TTL オートになります。
- 充電完了後およそ3分以上放置したときは、ストロボの電源が自動的に切れます。カメラのシャッターボタンを 半押しするとストロボの充電が再開されます。

#### A F 3 3 0 F T Z

周りの明るさによってシャッター速度と絞りが変化しますので、日中シンクロ撮影にご利用いただけます。絞りとシャッター速度の変化に関しては内蔵ストロボと同様です。[69ページ参照]

- 暗くてオートフォーカスの苦手な被写体でも、AFスポットビームを自動的に投光しますので、オートフォーカスを働かせることができます。
- オートズーム機構付きですから、レンズの焦点距離に対応して自動的に照射角度が変化します。
- 光量比制御モードがご利用できます。[77 ページ参照]
- カメラがプログラム自動露出、シャッター優先自動露出、絞り優先自動露出であれば、ストロボのモードがマニュアルでも自動的に TTL オートになります。
- 充電完了後およそ3分以上放置したときは、ストロボの電源が自動的に切れます。カメラのシャッターボタンを 半押しするとストロボの充電が再開されます。

#### AF240FT, AF400FTZ

- 周りの明るさによってシャッター速度と絞りが変化しますので、日中シンクロ撮影にご利用いただけます。絞りとシャッター速度の変化に関しては内蔵ストロボと同様です。「69ページ参照」
- 暗くてオートフォーカスの苦手な被写体でも、AFスポットビームを自動的に投光しますので、オートフォーカスを働かせることができます。
- カメラがプログラム自動露出、シャッター優先自動露出、絞り優先自動露出であれば、ストロボのモードがマニュアルでも自動的にTTLオートになります。
- 充電完了後およそ5分以上放置したときは、ストロボの 電源が自動的に切れます。カメラのシャッターボタンを 半押しするとストロボの充電が再開されます。

## AF200T、AF280T、AF400T

- TTLオートモードで使用すると、周りの明るさによってシャッター速度が変化します[1/100秒~1/30秒]ので、日中シンクロ撮影にご利用いただけます。なお、シャッター速度の低速限界はご使用レンズの焦点距離によって変化します。ただし、Aレンズ以前のレンズ使用時は1/100秒固定となります。。
- 外光オート[赤・緑・黄位置]で使用すると、絞りは下表のように切り替わります。充電が完了すると、シャッター速度も1/100秒~1/30秒に変化します。なお、シャッター速度の低速限界はご使用レンズの焦点距離によって変化します。ただし、Aレンズ以前のレンズ使用時は1/100秒固定となりすます。

	AF200T	AF280T	AF400T
赤	F 2.8	F 4	F 4
緑	F 5.6	F 8	F 8
黄			F 1 1

[ISO 100の場合]

# ストロボ撮影[使用上]の注意

内蔵ストロボとベンタックス専用の外付けストロボを組 み合わせて使用すると、充電完了した外付けストロボの 機能が優先されます。撮影時は、各ストロボの充電の完 了を確認してからシャッターを切ってください。

## 光量比制御シンクロ撮影

AF330FT2またはAF500FT2とカメラの内蔵ストロボを組み合わせることで、二つのストロボの光量の違いを利用した増灯撮影(光量比制御シンクロ撮影)ができます。 光量の比率は、内蔵ストロボが1に対して外付けストロボは2になります。

- AF330FTZ、AF500FTZのシンクロモードを光量比制御モードにします。
- 2. 両方のストロボの充電完了を確認してから撮影してください。
  - \* AF330FTZ、AF500FTZをカメラから離してご使用になると、光量比制御の効果が大きくなります。この場合には、別売りアクセサリーのホットシューアダプターF[AF330FTZでは2個]と延長コードF5Pをご利用ください。なお、ホットシューグリップなど接点数の異なるアクセサリーを組み合わせると、誤動作の原因となるので、使用しないでください。
- \* 光量比制御シンクロ撮影では、シャッター速度の上限が 1/60秒になる他は先幕シンクロと同様になります。



# (11) アクセサリーについて

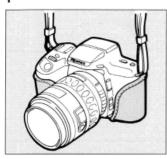
# 1)専用アクセサリー[別売]

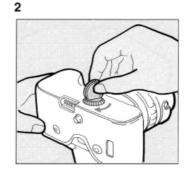
Z-50p には、各種専用アクセサリーが用意されています。 詳しくは、各サービス窓口にお問い合わせください。

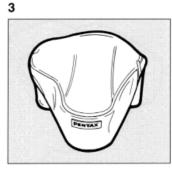
- ケーブルスイッチ F
   Z-50 p、Z-20 p、Z-20、Z-1、Z-10、SFXn、SF7等に使えるレリーズコード。
- マグニファイヤーFB ファインダー中央部を拡大して見る接写用アクセサリー。
- オートストロボAF500FTZ ガイドナンバー50のAFスポットビーム内蔵オート ズームストロボ。スレーブ機能、マルチ発光、光量比 制御モードや先幕・後幕シンクロ撮影などが可能。
- オートストロボAF330FTZ ガイドナンバー33のAFスポットビーム内蔵オート ズームストロボ。光量比制御モードや先幕・後幕シン クロ撮影などが可能。
- ホットシューアダプターF、延長コードF5P AF500FTZ・AF240FT・AF330FT Z・AF400FTZをカメラから離してストロボ撮影するときのアダプターとコード。
- AFアダプター1.7× F2.8より明るいKA・Kマウントレンズでオートフォーカス撮影するためのアダプター。
- マクロストロボAF140C ガイドナンバー14の接写用ストロボ。

アクセサリーの注意

- 「オートベローズA」はダブルレリーズが使用できません。また、縦位置撮影のときは、カメラのグリップ側を上にしてください。
- 「PENTAX-F★300mmF4.5ED[IF]」レンズの三脚座 を使用してカメラを縦位置にするとき、カメラのグ リップ側を上にするとレンズの三脚取り付け座がカメ ラに当たることがあるので、縦位置にするときにはグ リップ側を下にしてください。
- 「645レンズ用アダプターK」をボディーに着脱する際、アダプターの固定ネジの位置によってはボディーに当たる場合がありますのでご注意ください。 当たる場合は、固定ネジの位置を変えてから行ってください。
- レフレックス1000mmF11や2000mmF13.5レンズをボディーに着脱する際、レンズの縦横変換ロックネジの位置によってはボディーに当たる場合がありますのでご注意ください。当たる場合は、ロックネジの位置を変えてから行ってください。
- 「オートストロボAF200T・AF280T・AF 240FT・AF400FTZ」をカメラのホット シューに取り付けて使用する場合、カメラのTv/Av ボタンあるいは電源スイッチの操作性が悪くなりま す。







2) ソフトケース Fcp

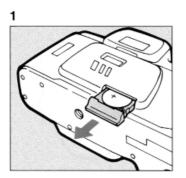
ソフトケース[別売]は、バックケース[底ぶた]とフロント ケース[前ぶた]からできています。

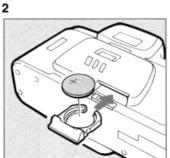
- 1. フロントケースを開いて、カメラをバックケースに入れ ます。
- 2. ケース下部の取り付けネジを、コインなどを使用して締 め付けて固定します。
- \* フロントケースは、Z-10、Z-20 用と共通の F<sub>c</sub>S、F<sub>c</sub>M あるいは FcL を使用します。
- \* バックケース Fcp は、ソフトケースの S、M、L に共通 です。

フロントケースには、S、M、Lの3種類が あります。

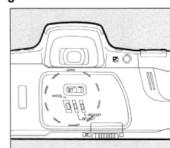
ケース	適合する F、FA レンズ
S	50mm/F1.4、F1.7、ズーム 35~70mm、 ズーム 35~80mm など
M	ズーム 28~80mm、ズーム 35~105mm など
L	マクロ 100mm、ズーム 28~105mm、 ズーム 70~200mm など

(79)





3

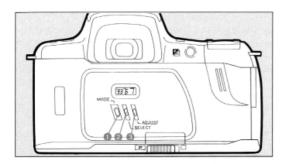


- 3) クォーツデートの電池交換
- 1. カメラの裏ぶたの電池ケースを矢印方向に引き抜き、電 池を取り出します。
- 2. 新しい電池の+側を上にして電池ケースに入れ元の位置 に「カチッ」と音がするまで差し込みます。
- 3. 電池を入れるとデータが表示されます。表示が出ないと きは電池の+-が正しく入っているかを確認してくださ 130

電池交換後はクォーツデートのデータ修正 [日付および 時刻の修正]を行ってから撮影してください。[81ペー ジ参照]

\*電池は必ず、決められたリチウム電池 CR2025 を1 個使用します。

応用的な使い方





- 4) クォーツデートのデータ修正
- MODE ボタン
- ②= SELECT ボタン
- ⑥ = ADJUST ボタン

## データの修正方法

- ②の SELECT ボタンを押すと数字が点滅します。 押し直すと、点滅する位置が変わりますので、修正したい数字を点滅させます。
  - 点滅の順番: 年月日の表示のとき 年→月→日→ 時分表示のとき 時→分→:→
- ②の ADJUST ボタンを希望の数字が出るまで繰り返し押し、点減させた数字を変更します。
- \* ADJUST ボタンは、一回押すごとに数字が一つ進みます。押し続けると約2~3秒後からは早送りされます。
- ギデータの修正を行うときは、コインなどを利用してく ださい。

(81)

#### 「年月日|の修正

- ②の SELECT ボタンを押して、年月日表示のうち 修正したい数字を点減させます。
- ②の ADJUST ボタンを押して、データを合わせます。
- 修正後は、❷の SELECT ボタンを押して、点滅を 止めます。

# 「日時:分」の修正

- ②の SELECT ボタンを押し、時・分・「:」表示 のうち修正したい数字[秒の場合は:]を点滅させます。
- 2. ③の ADJUST ボタンを押して、数字を合わせます。
- 3. 秒「:」を合わせるには、⑧の ADJUST ボタン を、時報などに合わせて押すと 0 秒になります。
- 修正後は、❷の SELECT ボタンを押して、点滅を 止めます。

#### クォーツデート使用上の注意

- \*「年月日」と「日時:分」は同時には写し込めません。
- \*デートの使用可能温度は約50℃~0℃ですが、低温下では、写し込まれる文字が薄くなることがあります。
- \* 使用できるフィルムは、感度がISO25~1600までのもの です。感度のセットはカメラにDXフィルムを入れると 自動的に合わせられます。
- \* 高感度フィルム[ISO 1000以上]を使ったときは、写し込まれる文字がにじむことがあります。
- \*ISO 50以下のフィルムは、フィルムにより写し込まれる 文字が薄くなることがあります。
- \*修正途中[点滅表示中]は、シャッターを切ってもデータ は写し込まれません。
- \*クォーツデートは、3 Vリチウム電池 CR2025 を使用しています。

電池の寿命は約3年です。写真のデータが薄くなってきたり、写らなくなった場合には電池を交換してください。なお、電池の交換は80ページをご覧ください。

# (12) 絞りとシャッター速度の効果



高速シャッター



低速シャッター

写したい物[被写体]の明るさによって、適正露出を決めることは、シャッター速度と絞り値の組み合わせを決めることです。ところが、被写体が同じ明るさであってもシャッター速度と絞り値の組み合わせはいくつもあり、この組み合わせを選ぶことにより写真の効果を変えることができます。41ページのプログラムシフトでは、この写真の効果を簡単に変えることができます。

# シャッター速度の効果

シャッター速度は、光がフィルムに当たっている時間を長くしたり、短くしたりしてフィルムに当たる光の量を調節 しています。

シャッター速度が遅ければ、シャッターの開いている時間が長いので、もし、このとき被写体が動いていれば、当然被写体がぶれてしまいます。逆にシャッター速度を速くすると、動きのある被写体でも動きを止めて写すことができます。また、被写体が動いていなくてもシャッター速度を速くすると、シャッターを切るときにカメラが動いてしまうカメラぶれを防ぐ効果もあります。また、川や滝、波などを低速のシャッター速度で写すと動感のある写真になります。





小絞り側

応用的な使い方



開放絞り側

## 絞りの効果

絞りは、レンズを光が通るときの光東[光の太さ]を大きく したり、狭くしたりしてフィルムに当たる光の量を調節し ています。

絞りを開いて光束を広くすると、ピントを合わせた物に対してその前後の物のピントのずれが大きくなります。つまり、ピントの合う範囲[被写界深度]が狭くなります。逆に、絞りを絞って光束を狭くすると、ピントの合う範囲が広くなります。

例えば、風景の中で人物を撮影するときに、絞りを開いて 撮影すると、ピントを合わせた人物の前後の風景のピント がずれるため、人物だけが浮かび上がる効果があります。 逆に、絞りを絞ると前後の風景にまでピントを合わせるこ とができます。

|||| 応用的な使い方

被写体のある部分にピントを合わせると、その前後にもピ ントが合う範囲があります。この範囲を被写界深度といい ます。

被写界深度[ピントの合う範囲]は、図のように絞りを絞り 込むほど深くなりますが、この他にも広角レンズほど、ま た、被写体が遠くなるほど被写界深度は深くなります。 ピントの合う範囲

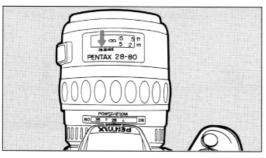
絞りを変えることによってピントの合う範囲[奥行]が変わります。

ズームレンズには機構上被写界深度目盛りは付いていません。

PENTAX 28-80



# (14) 赤外線指標について





赤外線フィルムと「R2」や「O2」フィルターを使用して赤外線写真を撮影するときは、一般撮影[可視光線]とビント位置が異なってくるため、ビントの補正が必要になります。オートフォーカスでは赤外線写真のピント補正ができません。一度普通にビント合わせをしてから、フォーカスモードレバーを「MF」にし、距離リングを赤外線指標の分だけ左に回して補正します。

図のように、焦点距離目盛りが28のときは、距離目盛りを 28の赤外線指標[赤線]までずらします。

\* 赤外線写真を撮影するときの露出は、フィルムの説明書を参考にしてください。自動露出では適正露出が得られませんから、マニュアル露出で撮影します。



応用的な使い方

# その他について

# IV その他について

- \*カメラ用の電池はリチウムの 2 C R 5 、データバック用にはリチウムのコイン型電池 C R 2 0 2 5 を使用します。
- \*電池は正しく使いましょう。誤った使い方は液もれ・発 熱・破損の原因となります。電池の+-を間違えないよ うご注意ください。
- \*電池は幼児の手の届かない所に保管してください。万一 電池を飲み込んだ場合は、直ちに医師にご相談くださ い。治療方法についてのお問い合わせ先。

筑波中毒110番:0298[52]9999 24時間体制 大阪中毒110番:06[451]9999 24時間体制

- \*電池をショートさせたり、分解や充電をしたり、火の中 に入れると破裂・発火の恐れがありますので絶対にしな いでください。
- \*海外旅行や寒冷地での撮影や写真をたくさん撮る予定のあるときなどは、予備電池を用意しておくと安心です。

- \* 低温では、一時的に電池の性能が低下して容量 [能力] 不足になることがありますので、できるだけ新品の電 池を使うか、もう一つの電池を用意して交互に保温し ながらお使いください。
- \*カメラバックなどに入れるとき、シャッターボタンが押されると電池が消耗します。電源スイッチを切っておくと安全です。
- \*内蔵ストロボを連続して使うと、カメラ用の電池が多少 温かくなる場合がありますが、これは電池の特性で異常 ではありません。

撮影可能フィルム本数およびバルブ時間

一般撮影	約100本
ストロボ撮影 [使用率 5 0 %]	約25本
ストロボ撮影 [使用率100%]	約15本
バルブ露出時間	約12時間

新品のリチウム電池 2CR5 で、当社試験条件による。[24枚撮りフィルム、常温]

\*撮影可能フィルム本数は使用条件によって変わります のでご注意ください。



# 2) 取り扱い上の注意

カメラは精密機械です。取り扱いには充分ご注意くださ い。

- \* 落としたり、固いものにぶつけないようにしてください。もしも強いショックや圧力を与えた場合は点検を受けてください。
- \*レンズやファインダー窓のホコリはプロワーで吹き飛ば し、きれいなレンズブラシで取り去ってください。
- \*高温多湿の所へ保管したり、長時間放置することは避けてください。特に車の中は高温になることがありますのでご注意ください。
- \*カメラの使用温度範囲は50℃~-10℃です。
- \*寒い外から急に暖かい部屋へ持ち込むと[または逆の場合も]、カメラの内外に水滴を生じます。このような環境では、カメラをバッグやビニール袋に入れて、できるだけ温度変化をゆるやかにし、温度差が少なくなってから、取り出してください。
- \*カメラは、防虫剤入りのタンスや薬品を扱う実験室を避けてください。また、カビ防止のためケースから出して 風通しの良い所に保管してください。
- \*汚れ落としに、シンナーやアルコール・ベンジンなどの 有機溶剤は使用しないでください。
- \*ゴミや泥・砂・ホコリ・水・有害ガス・塩分などがカメ ラの中に入ると、故障の原因になりますからご注意くだ さい。保証期間中でも有料修理になる場合があります。 雨や水滴などが付いたときは、良く拭いて乾かしてくだ さい。

- \*シャッター幕やミラーには、手を触れないでください。
- \*カメラ内部には、高電圧部があります。危険ですから決して分解しないでください。
- \*一般に、電気系のトラブルは接点部の汚れやゴミが原因 になる場合が多いものです。もし、電気系の不具合と思 われる現象が出たときは、電池の接点や各部の接点に手 油などの汚れ、塩分や特殊ガスなどによる腐食、あるい はゴミなどが付いていないかチェックしてみてくださ い。
- \*サービスサイズのカラープリントでは画面周辺でフィルムに写っていたものが切られてしまうことがあります。 構図を決めるときに少し余裕を取っておくと安心です。
- \*水没品は修理不可能の場合が多くなります。当社のサービス窓口にご相談ください。
- \*高性能を保つため、1~2年ごとに定期点検をお勧めします。長期間使用しなかったときや、大切な撮影の前には、点検や試し撮りをされるようにしてください。
- \*マクロレンズや望遠レンズを使用したときは、ファイン ダーの上部がミラー切れによって暗くなることがありま すが、撮影した写真には影響ありません。



LCD[液晶]用バックアップ回路について 撮影途中のフィルムがカメラに入っているとき、電池交換

のために電池を抜いても、撮影枚数とフィルム感度はカメ ラに記憶されています。

# LCD[液晶]表示について

- \*約60℃の高温では液晶表示が黒くなることがあります が、常温に戻れば正常になります。
- \*低温下では、液晶の表示応答速度が遅くなることもあり ますが、これは液晶の性質によるもので、故障ではあり ません。





# 3) こんなときは?

# 修理を依頼される前にもう一度、次の点をお調べください

症 状	原因	処 置	参照ページ
シャッターが切れない。	電源スイッチが入っていない。	電源スイッチを入れてください。	14 ページ
	バッテリー警告 🚺 が出ている。	電池を交換してください。	10 ページ
	電池が逆に入っている。	電池を正しく入れてください。	10 ページ
	セルフタイマーになっている。	セルフタイマーを解除してください。	54 ページ
	内蔵ストロボが充電中である。	充電されるまで待ってください。	69 ページ
<b>長示パネルに表示が出ない。</b>	電源スイッチが入っていない。	電源スイッチを入れてください。	14 ページ
	電池が入っていない。	電池を入れてください。	10 ページ
	電池が逆に入っている。	電池を正しく入れてください。	10 ページ
	電池が完全に消耗している。	電池を交換してください。	10 ページ
ピントが合わない。	ピントを合わせたい物 [被写体] に AF フレーム [ ] が合っていない。	被写体を AF フレーム [ ] に入れて撮 影してください。	28 ページ
	被写体に近づきすぎている。	被写体から離れてください。	28 ページ
	フォーカスモードレバーが MF になって いる。	フォーカスモードレバーを AF にしてくだ さい。	28 ページ
	オートフォーカスの苦手な被写体。	フォーカスロックを使うか、マット部分でのピ ント合わせをしてください。	30 ページ 37 ページ
ファインダー内の 〇 が点滅す る。	撮影する距離が近すぎたり、オートフォーカ スの苦手な被写体などのためピント合わせが できない。	7 7 77 2 2 2 7 7 7 7 1 1 1 1 2 7 7 2 2 2	30 ページ 37 ページ
内蔵ストロボが充電しない。	電池が消耗している。	電池を交換してください。	10 ページ

症 状	原因	処 置	参照ページ
露出補正がセットできない。	電源スイッチがグリーンポジションになっている。	電源スイッチをON位置にしてください。	14 ページ
	露出モードがマニュアル露出になっている。	露出モードをマニュアル露出以外にしてください。	39 ページ
ズームクリップモードにセットできない。	レンズがマニュアルズームになっている。	レンズのズームリングを前側に出して POWER ZOOM にする。	60 ページ
	レンズのオートズームスイッチが P (一部 レンズでは PZ) になっている。	レンズのオートズームスイッチを A (一部レ ンズでは AZ) にする。	60 ページ
イメージサイズ指定モードにセット できない。	カメラ側のフォーカスモードレバーが MF になっている。	カメラ側のフォーカスモードレバーを AF にする。	28 ページ
	レンズがマニュアルズームになっている。	レンズのズームリングを前側に出して POWER ZOOM にする。	60 ページ
	レンズのオートズームスイッチが P (一部 レンズでは PZ ) になっている。	レンズのオートズームスイッチを A (一部レ ンズでは AZ) にする。	60 ページ
パワーズームが動かない。	レンズがマニュアルズームになっている。	レンズのズームリングを前側に出して POWER ZOOM にする。	25 ページ
撮影のときズームが勝手に作動する。	イメージサイズ指定モードになっている。	イメージサイズ指定モードを解除する。	63 ページ
露光間ズームにセットできない。	レンズがマニュアルズームになっている。	レンズのズームリングを前側に出して POWER ZOOM にする。	60 ページ
ズーミングをするとピント合わせを してしまう。	バワーズームでズーミングをすると自動的に ピント合わせをします。		25 ページ



静電気などの影響により、希にカメラが正しい作動をしなくなることがあります。このような場合には、一旦電 池を入れ直してみてください。正常に作動すれば故障ではありませんので、そのままお使いいただけます。



# 4) 主な仕様

画面サイズ	TTLストロボ内蔵 TTL AE・AF35mm一眼レフカメラ 24×36mm [パノラマ撮影時は 13×36mm] 35mmフィルム[ ] 135パトローネ入り 35mm D X フィルム=ISO25~5000 D X でないフィルムはISO 100固定
	プログラム自動露出、シャッター優先自動露出、絞り優先自動露出、マニュアル露出、バルブ
	電子制御式縦走りフォーカルプレーンシャッター オートシャッター=1/2000秒~30秒[無段階]、マニュアル
	シャッター=1/2000秒~30秒、バルブ、電磁レリーズ、電源スイッチ切りでシャッターロック
レンズマウント	ペンタックスバヨネット KAF2 マウント [AF カプラー、レンズ情報接点、パワーズーム用電源ピン付き K マ
	ウント]
	KAF2、KAF マウントレンズ KA、K マウントレンズ [AF アダプター使用で AF 可能]
オートフォーカス機構――	TTL位相差検出式、オートフォーカス作動輝度範囲 $E_v-1\sim$ 18[ISO100][ $F_1.4$ レンズ付き]、フォーカス
	ロック可能、フォーカスモード= AF [動体予測可]、 MF
パワーズーム――	FAズームレンズとの組み合わせにより、3速パワーズーム・イメージサイズ指定・ズームクリップ・露光間
	ズームが使用可能
ファインダー	ベンタミラーファインダー、アスフェリックマイクロマットフォーカシングスクリーン、視野率92%、倍率
	0.77倍[50mm・∞]、視度=− 1 D [ディオプトリー]、パノラマ視野枠付
ファインダー内表示 ――	フォーカス表示 [FI = フォーカスインジケーション] 🔘 合焦マーク = 点灯 合焦不能マーク = 点滅、
	シャッター速度表示、絞り表示、 😉 = ストロボ情報マーク、 😉 = 露出補正マーク、パーグラフ
	= 露出補正値、マニュアル露出時のオーバー、アンダー表示、 💷 = パノラマシグナル
LCDパネル表示 ―――	<b>p</b> = プログラム自動露出マーク、 <b>A</b> = シャッター優先 / 絞り優先自動露出マーク、 <b>M</b> =
	マニュアル露出マーク、露出補正 = -3.0~3.0、 🚦 = イメージサイズ指定マーク、 📵 = ズーム
	クリップマーク、 🔳 = 露光間ズームマーク、シャッター速度 = 2000~30 s・ 📴 マーク、絞りF
	値 = 1.2~90、ISO = 6~6400、バーグラフ [露出補正値、マニュアル露出のオーバー、アンダー表示]、
	<b>┗○</b> = パトローネ・フィルム走行・巻き取りマーク、
	ター = 0~99、
	∮ 速い点滅 = 不適切レンズ警告マーク、 ◎ = セルフタイマーマーク、 〒 = Tvマーク、
	② = A <sub>v</sub> マーク、 ③ = 赤目軽減機能マーク、 □ = 連続撮影マーク、 □ = 露出補正マーク



電子制御式、始動はシャッターボタン、作動時間12秒[電子音]、作動後解除可能 - クイックリターンミラー、オートフォーカス用第2ミラー付 ミラー・ フィルム入れ ― - オートローディング、裏ぶた閉じにより1枚目まで自動巻き上げ、裏ぶたにフィルム情報窓付 巻き上げ・巻き戻し-内蔵モーターによる自動巻き上げ・巻き戻し式、1コマ撮影・連続撮影[約2コマ/秒]、フィルム終了時自動巻 き戻し、フィルム走行・巻き戻し完了をLCD表示、途中巻き戻しボタンによる途中巻き戻し可能 露出計・測光範囲 TTL開放 6 分割測光、測光範囲 50mm F1.4 ISO100 EV 1 ~21、マニュアル露出時スポット測光 露出補正 ±3EV[0.5EVごと設定可能] ストロボ 直列制御TTLストロボ内蔵、ガイドナンバー13[ISO100/m]28mmレンズをカバー、同調速度 1/100秒~1/30秒 へ自動切り替え、日中シンクロ、低速シンクロ、光量比制御可能 ISO 連動範囲=25~400 シンクロ-ホットシュー[X接点専用ストロボ接点付き] 専用ストロボ連動 ISO 連動範囲=25~800 電池消耗警告 裏ぶた・ 交換可能 大きさ・質量[重さ] 146.0mm[幅]×93.0mm[高]×69.5mm[厚] 520 g [ボディーのみ 電池別] ホットシューカバー $F_E$ 、レリーズソケットキャップ $F_E$ 、カメラストラップ $F_D$ 、アイカップ $F_E$ 、ファイン 付属品 -ダーキャップ クォーツデート仕様 デート機構・ - クォーツ制御、液晶表示式、デジタル時計、オートカレンダー[西暦2019年まで、閏年は自動修正] データの写し込み方法 ― 7セグメント6桁LCD、フィルム背面より写し込み

データ表示 ― データ表示窓にLCD表示、表示写し込み時 - が2~3秒間点滅

データの種類 ― ①年・月・日、②日・時・分、③ ----- [データ写し込み無し]、④月・日・年、⑤日・月・年

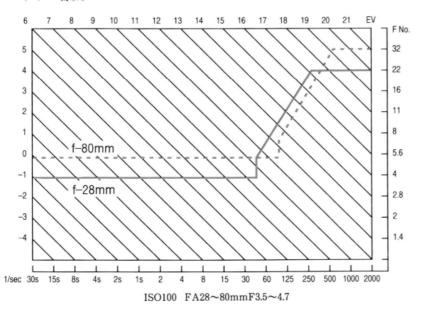
使用フィルム感度ー ISO25~1600[感度自動セット]

デート電源 -CR2025[リチウム電池]

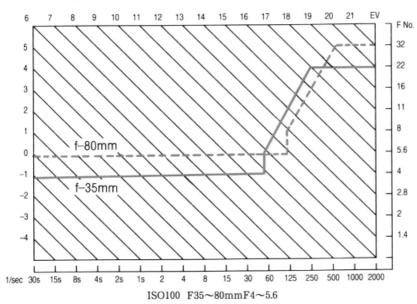
発光回数 -約5000回

# 93

# プログラム線図











# お問い合わせは次の各サービス窓口へ

- ■営業時間: ●ベンタックスフォーラム(新宿)
  - 午前10時30分~午後6時30分 (原則として年末年始を除き年中無休)
  - ペンタックスフォーラム・大阪
  - 午前10時~午後6時(日・祝日休業)
  - 各サービスセンター ベンタックスファミリー
- 午前9時~午後5時(土・日・祝日休業)



# 仙台サービスセンター

- ☎022(261)56816℃
- **〒**980
- 仙台市青葉区中央2丁目2番10号 仙都会館4階



#### ベンタックスフォーラム (ショールーム・写真展・修理受付)

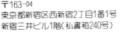
☎03(3348)2941%©

**☎**03(3571)5621(代)

(土橋交差点交番並び)

〒163-04

東京サービスセンター



東京都中央区銀座西8丁目10番地



# 新潟サービスセンター

- ☎025(224)8391ff0
- 〒951
- 新潟市本町通七番町1153番地 新潟本町通ビル



#### 横浜サービスセンター

- ☎045(681)8771(H)
- ₹231
- 横浜市中区不老町1丁目6番9号
- 横浜エクセレント ▼ビル3階



#### 札幌サービスセンター

☎011(612)32316<sup>t</sup>0

**〒**060

札幌市中央区

北10条西18丁目36番地



## 静岡サービスセンター

☎054(255)6308/ft/

**=**420 静岡市伝馬町24番2号 住友建設ビル5階





## 名古屋サービスセンター

- ☎052(962)5331(ft) ₹461
- 名古屋市東区泉1丁目19番8号



# 金沢サービスセンター

- ☎0762(22)0501(代) 〒920
- 金沢市尾張町2丁目8番23号 太陽生命ビル6階



4

# 福岡サービスセンター

- ☎092(281)6868#U
- ₹810

福岡市博多区中洲中島田3番8号



) **1** 

# お客様相談室

- ☎03(3572)6479
- 〒104
- 東京都中央区銀座西8丁目10番地 (土橋交差点交番並び)



# 大阪サービスセンター

- ☎06(271)7996(代) (修理受付)
- **〒**542 大阪市中央区南船場1丁目17番9号
- ペンタックスフォーラム・大阪
- (ショールーム・写真展)
- **☎**06(271)3960



# 広島サービスセンター

- ☎082(248)4321(代)
- **〒**730
- 広島市中区大手町3丁目7番2号 大東京火災広島ビル8階



# ベンタックスファミリー(写真クラブ)

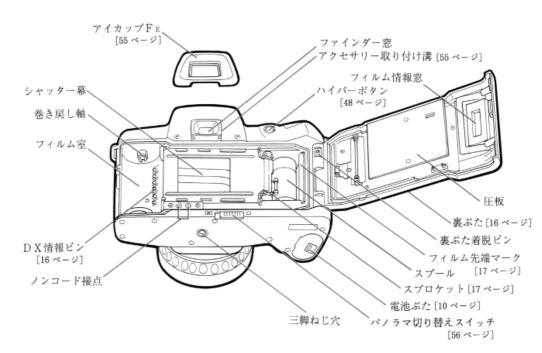
- ☎03(3401)2187
- 〒106
- 東京都港区西麻布3丁目24番20号 交通安全教育センター3階

#### ペンタックスファミリーのご案内

ペンタックスファミリーは、ペンタックス愛用者の写真クラブで す。年4回の会報と写真年鑑の配布、イベントへの参加や修理料 金の会員割引など様々な特典があります。

お申し込み・お問い合わせは上記ペンタックスファミリー事務局 まで。

# 各部の名称(2)



# アフターサービスについて

- 旭光学のサービス窓口では、ペンタックスカメラを はじめ、各種交換レンズやアクセサリーが展示され、手にとってご覧になれます。また、種々のご相 談にも応じておりますので、お気軽にお立ち寄りく ださい。
- 他社製品[レンズ、アクセサリー等]との組み合わせ使用に起因する故障については有料となります。
- 1. 修理をお急ぎの場合は、当社のサービス窓口に直接 お持ちください。郵送の場合は、カメラの化粧箱な どを利用して、輸送中の衝撃に耐えるようしっかり 包装し、書留小包便でお送りください。なお、不良 見本のフィルムやプリント、また、故障内容は正確 にメモして添付していただけると原因分析に役立ち ます。
- 2. 保証期間中[ご購入後1年間]は保証書(販売店印、およ び購入年月日が記入されているもの]をご提示くださ い。保証書がないと、保証期間中でも修理が有料に なります。なお、販売店または当社サービス窓口へ お届けいただく諸費用は、お客様にご負担願いま す。

- 3. 保証期間以後の修理は原則として有料です。なお運賃 諸掛りはお客様にご負担願います。
- 4. 本製品の補修用性能部品は、製造打ち切り後、10年間を目安に保有しております。したがって本期間中は原則として修理をお受けいたします。なお、期間以後であっても、修理可能の場合もありますから、当社の各サービス窓口にお問い合わせください。
- 5. 外国旅行をされる場合、各サービス窓口ではお手持ちの保証書と交換に、国際保証書を発行いたします。[保証期間中のみ有効]なお、特定の旅行先でのサービス窓口の住所については、お問い合わせください。





# 旭光学工業株式会社

〒174 東京都板橋区前野町2丁目36番9号

ペンタックス販売株式会社

〒100 東京都千代田区永田町1丁目11番1号